

課題解決型高度医療人材養成プログラム申請書 (健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成)

【様式B-1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	岡山大学 (北海道大学, 大阪大学, 九州大学, 長崎大学, 鹿児島大学, 金沢大学, 昭和大学, 日本大学, 岩手医科大学, 兵庫医科大学) 計11大学		
取組	1 - (3)	申請区分	共同事業
事業名 (全角20字以内)	健康長寿社会を担う歯科医学教育改革 —死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉

人口の超高齢化に伴い歯科医療のニーズは劇的に変化している。う蝕、歯周病やその結果生じる歯周組織・歯の欠損を対象とした従来型の歯科医療に加えて、「口腔健康から全身健康に寄与する歯科医療」、さらに「急性期、回復期、維持期、在宅介護そして終末期医療をサポートする口腔機能管理ひいては栄養・感染管理に関わる歯科医療」が求められている。

一方で、現在の歯科医療・歯学教育は次のような課題を抱えている。

- ①死生学教育の欠如：歯科医師は、患者の死に寄り添うことに慣れておらず、周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入に健康保険が適応されても、歯科医師の参入が定着しない。
- ②医科歯科連携教育の不足：口腔感染・口腔機能異常と関連がある全身疾患が多数存在するにも関わらず、これらに対する医学知識やリハビリテーション等は十分体系付けられて教育されていない。また、健康な患者に行われる歯科的診断と治療技術が要介護者にそのままあてはめられないことがある。
- ③多職種連携や医療法制教育の不足：住まい・医療・介護・予防・生活支援が要介護者等へ包括的かつ継続的に提供されるための地域包括ケアや多職種連携システムに貢献できるプライマリケア歯科医が少ない。
- ④臨地実習の場の不足：生活の自立度が高い大学附属病院における外来歯科患者を扱う従来型の歯学教育では、健康長寿社会の実現に必要とされる広範な医療ニーズに応える歯科医師を輩出することが難しい。
- ⑤教育機会の不均等、共通教育ツールの不足：終末期ケアを含む在宅介護医療に対する教育システム（講義・実習）は、医学領域では地域医療の場や多職種連携組織と密接に関連付けられて確立されつつあるが、歯学領域ではそれに値するような教育改革が生まれていない。
- ⑥臨床研究能力や研究フィールドの不足：周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足している。

〈事業の概要〉（400字以内厳守）

実績のある国立大学歯学部と医学部を擁する私立大学歯学部、特色ある医学部歯科口腔外科が協力して、各大学の医療系学部の協力のもと、縦割りを排した新しい次元の医科歯科連携教育や在宅歯科医療学を構築、それを全国レベルで均てん化する。加えて、東京大学 死生学・応用倫理センター、高齢社会総合研究機構の協力のもと死生学や地域包括ケアに関する教育を導入する。また、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療研究センターの協力を得て、認知症等に対する最新の知識と歯科的対応を系統立てて学べる様にする。その結果、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。また、口腔から全身健康に寄与でき、急性期、回復期、維持期、在宅介護現場に対応できる歯科医を育てる。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

申請担当大学である岡山大学は、そのミッションとして、超高齢社会における医療現場や地域社会の福祉につながるリサーチマインドに溢れた歯科医療人の養成、具体的には、口腔感染症と全身疾患、加齢や各種疾患による摂食・嚥下・発音機能低下、口腔運動疾患、口腔領域のがん、小児・希少疾患、難病等に関する診療を通じて、超高齢社会における歯科医療の向上に貢献するとともに、医科歯科連携による診療を推進することを掲げている。連携大学である北海道大学は、有病者・障害者に対する治療、大阪大学は内科的歯科医療、九州大学は口腔疾患と全身健康に関する研究、長崎大学は離島等の地域歯科医療を担う歯科医師養成、鹿児島大学は地域・へき地・高齢者歯科医療に貢献できる人材養成をミッションに掲げており、本事業の目的に完全に合致している。また、昭和大学は大変先進的な医歯薬保健学連携教育を、日本大学は先導的な摂食嚥下リハビリテーション教育を行ってきた。岩手医科大学と兵庫医科大学は、被災地における多職種連携教育、金沢大学と兵庫医科大学は歯学部を擁さない医学部組織において周術期口腔管理学や医科歯科連携教育を展開してきた強みがあり、本申請目的に強く合致している。

③新規性・独創性

●医科歯科連携教育、在宅歯科医療学に関する教育資源の相互利用

申請大学である岡山大学と全国の連携大学や協力施設が協力して、全国共同教育ライブラリー（講義シリーズ、シミュレーション・PBL演習、急性期・在宅介護臨地実習）を開発し、相互利用する点に新規性がある。通常、他大学の特徴的な教育資源や協力施設の先進的な教育コンテンツ、臨地実習に、教員や学生が大学の枠を超えて触れることは稀で、本事業は、連携大学に今まで経験したことがない程の教育改革機運を引き起こすことになる。さらに、ITCを活用することにより、移動しなくても他大学の優れたコンテンツを利用できる。

●新規コンテンツとその組み合わせによる効率的な教育ツールの開発

各連携大学は、以下の教材（講義、プレクリニカル演習、PBL演習、急性期・在宅介護臨地実習）を自大学の状況に合わせて、適切に組み合わせることにより、現時点で最高レベルの学部教育、研修医教育、大学院教育コースワークを効率的に開発できる。

①死生学の導入：本授業教材に、東京大学死生学・応用倫理センターの協力を得て、「死を意識せざるを得ない人間を主題とする学問」死生学を導入する。

②多職種連携や地域包括ケア教育：住まい・医療・介護・予防・生活支援へ包括的に取組むための基礎知識を、各種自治体や東京大学高齢社会総合研究機構の協力のもと、教育する。

③成人病対策、介護予防、虚弱予防、各種全身疾患に関する医科歯科連携教育：健康寿命を延伸し、虚弱予防を推進するために、東京大学高齢社会総合研究機構、国立長寿医療研究センター、東京都健康長寿医療センター、九州大学歯学部、大阪大学歯学部等を中心とした口腔と全身の健康に関する講義シリーズを、糖尿病、認知症、メタボリック症候群、自己免疫疾患、がん、サルコペニア、栄養学、口腔ケア、リハビリテーション医学等と組み合わせ重点的に取り入れる。

④プレクリニカル演習の提供：要介護高齢者に接する臨地実習に備えて、岡山大学や昭和大学の要介護高齢者を模したシミュレーター教育（体位変換や介護演習）を提供する。

⑤臨地実習の場の提供：急性期病院の実習モデルとして、岡山大学病院周術期管理センターにおける多職種連携実習や昭和大学病院の医歯薬保健学部合同病棟実習を、老人介護施設や在宅介護現場の臨地実習モデルとして、岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習、長崎大学の離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習、日本大学の摂食機能療法学学外実習、東京大学高齢社会総合研究機構柏プロジェクト医療フィールドなどを提供する。

●臨床研究能力と臨床研究フィールドの開発

臨床研究デザインワークショップを歯学教育改革コンソーシアム各大学で共有し、年に一度行うシンポジウム＆ワークショップ時に拡大開催する。高齢者の疫学研究フィールドとして、東京大学の柏研究フィールド、大阪大学や東京都健康長寿医療センターのSONIC研究フィールド等に歯科として積極的に参画し、高齢者医療における歯科的介入のあり方、多職種連携のあり方について研究を進め、教育に反映する。

●国際学会や国内学会等との連携

日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）、欧州静脈経腸栄養学会（ESPEN）、MASCC/ISOOなどの国際会議との連携をとり、本事業の国際的存在感を高める。

④達成目標・評価指標

達成目標

口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。

そのために以下の具体的方策を掲げる。

1. 申請大学と連携大学や協力組織をまとめた**歯学教育改革コンソーシアム**(仮称)を設立し、教員FD、学生交流、相互チェック体制を整え、歯学教育改革の高度化と均てん化を図る。
2. 岡山大学、連携大学、協力組織が協力して、以下の**医療支援歯学教育コースワーク**を順次開始、連携大学の教員FDや学生交流に解放、提供する。
 - ①生活習慣病予防と歯科、急性期歯科医療、在宅介護歯科医療に関する**講義シリーズ**
 - ②要介護高齢者を模した**シミュレーター演習**や老人介護・在宅介護施設を用いた**PBL演習**
 - ③岡山大学病院周術期管理センターを利用した**高度医療支援・周術期口腔機能管理実習**
 - ④臨床講師等を利用した**在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習**
3. 各連携大学に、**特徴ある有病者・高齢者・在宅介護・災害対応に関する医療支援歯学教育プログラム**を設置、相互利用を行う。
4. 各連携大学の**学部教育**に、同様な医療支援歯学教育コースワークを組み入れる努力をする。
5. 各連携大学の**卒後臨床研修制度**に、急性期、回復期、維持期、在宅介護現場をサポートする**多職種連携医療**に対応したコースワークを設置する。
6. 一部の連携大学の**大学院**に、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した疫学研究の推進を可能とする**医療支援歯学研究コース**(仮称)を設置する。

評価指標

1. 各連携大学の特色ある**医療支援歯学教育プログラム**が各1単位以上整備される。
2. **全国統一共用電子授業**が6単位以上蓄積整備される。
3. 事業終了時には、**医療支援歯学教育コースワーク**(授業シリーズ、シミュレーション・PBL演習、高度医療支援・周術期口腔機能管理実習、在宅・訪問歯科診療実習)が、連携大学の学部教育の実情に合わせた形で実施される。
4. 毎年、各連携大学の**教員や学生**(教員：平成26年度以降、各年4名以上、学生：平成27年度以降、各年10名以上)が、他の連携大学にFD教員や交換学生としてなるべく多数訪れる。
5. 本事業が目指す**多職種連携・在宅医療に参画できる歯科医**をなるべく多数輩出する。
(平成30年の第一期学部修了生歯科医師国家試験合格予想総数[平成26年国家試験合格者で換算]国立大学285名、私立大185名、総計470名程度)
6. 教育・研究フィールドから研究業績(論文、発表)がなるべく多数生まれ、教育に反映される。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画、働きやすい職場環境、勤務継続・復帰支援等も含む。)

(2) 教育プログラム・コース → 【様式B-2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

●**歯学教育改革中核センター**(仮称)：岡山大学森田 潔学長の総括のもと、岡山大学歯学部歯学教育改革中核センターを設置し、センター長(歯学部長が兼任)に加えて、専任教員(助教)を配置する。この教員は、本事業に関連する岡山大学の教育コンテンツの開発、管理はもとより、連携大学も視聴可能な共通ライブラリーの管理、ホームページを利用した広報、情報伝達活動に関わる。

●**歯学教育改革中核センター運営委員会**：歯学教育改革中核センターの運営に係る意思決定機関として、歯学教育改革中核センター運営委員会（委員長：窪木拓男・岡山大学歯学部長）を設置する。この委員会は岡山大学歯学部の学部内委員と学部外委員で構成する（様式B-3を参照、学部内委員：2-10、学部外委員：11-18）。

●**歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会**：申請担当大学、連携大学および協力組織で構成する歯学教育改革コンソーシアムに歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会を置く。この委員会は、歯学教育改革中核センター運営委員会委員に、連携大学と協力組織から各1名の委員（学部長クラス）を加えたものである（様式B-3を参照）。本事業推進委員会の下部組織として、各連携大学から選出された**実習コーディネーター会議**、**教育カリキュラム開発・編成担当者会議**を置き、随時、各連携大学のカリキュラムのブラッシュアップ、教員の相互派遣、FD、学生の他大学コース履修調整などにあたる。

②事業の評価体制

●**内部評価**：歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員から選出された5名程度の**内部評価委員会**が年度ごとに事業の進捗状況をまとめ、最終報告書を取りまとめる。それを年に数回開催する歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会で報告する。

●**相互チェック**：岡山大学を含む各連携大学の特徴的な医療支援歯学教育プログラムと医療支援歯学コースワークの準備状況や実施状況をチェックするために、年に1度、他大学の歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員等が連携大学を訪問する。状況は、事業推進委員会に報告され、内部評価に記録される。

●**外部評価**：恒石美登里研究員（日本歯科医師会 日本歯科総合研究機構）を委員長とし、菊谷武教授（日本歯科大学、口腔リハビリテーション多摩クリニック院長）、東口高志教授（日本静脈経腸栄養学会理事長、藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座）、葛谷雅文教授（名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学）、熊倉勇美名誉教授（川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科）等からなる7名程度の**外部評価委員会**を組織する。2年毎に外部評価委員長が外部意見を取りまとめ、歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会に伝達する。

③事業の連携体制（連携大学、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

●**岡山大学が申請担当大学となる理由**：岡山大学は、①平成17年より毎年、摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会を岡山県歯科医師会の依頼を受けて行い、今年度も174名（第10回）の受講者を得た。②全国に先駆けて平成20年に設置した岡山大学病院**周術期管理センター**に開設当初から歯科が参画、医療支援・周術期管理歯科における**新規診療報酬収載のモデル**になった。③平成21年より卒前歯学臨床教育における**周術期管理・在宅介護に関するインターンシップ実習**を開始した。④平成24年、25年と既に2度、周術期における**口腔機能管理**を具体的に考えるシンポジウムを開催し、全国から多数の実務者を受け入れた。⑤平成25年国立長寿医療研究センターと**連携大学院**を設立した。⑥平成26年4月27日には、学外臨床講師等を利用した**在宅歯科診療参加型臨床実習キックオフシンポジウム**を開催し、本申請の連携校と歯学教育改革議論を開始した。

●**協力施設との役割分担や連携のメリット等**：本改革は歯学部関係者だけの力では成就しない。そこで、本邦で最も高齢者医療や在宅介護行政・研究に造詣が深い**東京大学死生学・応用倫理センター**（清水哲郎特任教授、会田薫子特任准教授）、**東京大学高齢社会総合研究機構**（飯島勝矢准教授、東京大学医学部 在宅医療学拠点 運営委員会委員）、**国立長寿医療研究センター**（角保徳歯科口腔先進医療開発センター長）、**東京都健康長寿医療センター研究所**（平野浩彦社会科学系専門副部長）に協力を仰ぎ、医療教育基盤と足並みをそろえた改革を行う。

●**連携大学との役割分担や連携のメリット等**：国立大学では、**北海道大学**（医科との緊密な連携体制に基づく周術期管理と多職種連携）、**大阪大学**（高齢者における咀嚼機能と栄養、認知機能に関する疫学研究：SONIC研究フィールド）、**九州大学**（歯周病と全身疾患の関係に関する先端的研究拠点）、**長崎大学**（離島を用いた在宅介護実習と医科歯科連携）、**鹿児島大学**（島嶼部歯科医療）が連携大学である。私立大学は、全連携大学が**医学部を擁する大学**である。**昭和大学**は全国の歯科大学では並ぶものがないほど積極的な、医歯薬保健学の共同・連携教育を進めている。また、**日本大学**は摂食嚥下リハビリで、**岩手医科大学**は災害医療や法歯学に大きな実績がある。さらに歯学部を持たない医学部組織の中の歯科口腔外科では、国立から**金沢大学**医学部歯科口腔外科学、私立から**兵庫医科大学**歯科口腔外科学が含まれている。これらの大学はがん治療に関連して、NST、周術期管理医療に積極的に取り組んでおり、歯科臨床研修医や医学部生への歯学教育を均てん化するためには、不可欠な存在である。これらの連携大学は得意分野や特徴的な教育研究プロジェクトを擁しており、**相補的・相乗的な組み合わせ**が可能となる。これらを総合すると、東京大学医学部等で進んでいる要介護高齢者医療に対する医療従事者向け教育ライブラリーと双頭をなす歯学関係者向け教育ライブラリーの開発が可能となる。

●**地域医療機関等との役割分担や連携のメリット等**：岡山大学歯学部は、臨床教授・講師制度を

利用して、多数の地域の中核病院，老人介護施設を歯学教育の場として追補してきた。平成26年度からは、在宅介護歯科医療の専門家を14名、専門臨床講師に任命し、臨床実習生を派遣する在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習を開始した。また、新たな実習フィールドとして、岡山県からの寄付講座として運営されている岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座（佐藤 勝教授）が管轄する県内27カ所の地域医療実習フィールドや岡山市地域ケア総合推進センターの多職種連携会議（土居弘幸 医学部疫学・衛生学教授）と連携することにより、教育・研究フィールドの更なる確保を行う。各連携大学においても、同様に、地域医療実習フィールドを医学部との連携で検索中である。特に、東京大学高齢社会総合研究機構（飯島勝矢准教授、東京大学医学部 在宅医療学拠点 運営委員会委員）が運営する柏在宅医療実習フィールドは、その先進的な多職種連携拠点として昭和大学を初めとした連携大学の在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習現場として活用される。

●民間企業等との役割分担や連携のメリット等：要介護高齢者を模したシミュレーターを医療機器メーカーと共同開発する。シミュレーターは、各連携大学に配布し、要介護高齢者歯科医療に関するプレクリニカル演習の充実に繋げる。

（２）事業の継続・普及に関する構想等

①事業の継続に関する構想

本事業の初期の目標は、相互利用可能な全国合同教材ライブラリー（講義、PBL演習、急性期・在宅介護臨地実習等）を開発し、ブラッシュアップする点にある。全国の連携大学は、このライブラリーの中の臨地実習などに教員をFDとして送り込み、各大学が効率的に実習や教材を開発できるように考えられている。各大学の教育レベルが均てん化されるまではある程度の補助が必要になるが、十分な均てん化が生じると、FDのための旅費等の支出は軽減される。また、申請大学である岡山大学には、本事業のような大型プロジェクト獲得後に、事業の継続実施に必要な経費を大学機能強化戦略経費（学長裁量経費）等で支援する制度がある。事業終了後のサーバー保守費用などは、各大学の受益者負担の考え方を組み入れる可能性もある。

②事業の普及に関する計画

本事業の連携大学は、11校と多い。国立大学歯学部半数以上がこのコンソーシアムに属している。また、医学部を擁する私立大学歯学部も3校全部が所属している。したがって、このコンソーシアムが機能的に稼働した場合、医科歯科連携教育に関する全国への普及、均てん化の効果は全国的に甚大なものになる。加えて、本事業が採択された暁には、本年開催のシンポジウム等の催しには、全国29歯学部・歯科大学全校に案内を送付し、本事業内容を全国に向けて報告する。本事業進行中においても、教育ライブラリーのうち実習や演習に関しては、教員FDへの使用の希望が生じた場合には、連携大学の許可を得て提供する。本事業終了後は、歯学教育改革コンソーシアムを全国の希望大学に拡大し、既存の連携大学の許可を得た上で全国統一教材ライブラリー（電子講義）を閲覧可能とする。事業の内容や連携大学・協力施設の教育実績、講演会、論文等に関しては、積極的にホームページ等で広報する。

（３）事業実施計画

26年度	①	9月	歯学教育改革中核センター(仮称)を設置, 事業のホームページ開設
	②	9月	岡山大学のコースワーク(CW)として老人介護施設を用いたPBL演習の試行
	③	9月	がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催
			歯学教育改革コンソーシアム(仮称)の事業推進委員会を開催
	④	10月	各連携大学の特徴あるプログラムの登録, 試行
	⑤	10月	連携校間や協力施設への教員FDとしての交流開始
	⑥	10月	教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査開始
	⑦	2月	岡山大学でキックオフシンポジウム, 事業推進委員会(学生交流のための単位互換制度のための準備), 第1回外部評価委員会開催
	⑧	2月	岡山大学のコンテンツ視聴システム・作成システム(1台)を整備
27年度	⑨	3月	自己評価委員会開催, 報告書作成
	①	4月	岡山大学のサーバー整備とコンテンツ視聴システムの機能向上
	②	5月	連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成開始
	③	6月	連携大学にコンテンツ作成システムを整備(4校×1台)
			岡山大学のCWとしてシミュレーターや老人介護施設を用いたPBLを公開(4年), シミュレーターの配布開始(3校×1台)

	④ 8月	がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催 事業推進委員会（ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ） 連携校間や協力施設への教員FD継続，学生交流開始
	⑤ 10月	岡山大学のCWとして周術期管理実習，在宅介護実習の開始と公開
	⑥ 10月	各連携大学の特徴あるプログラムの試行，実施，公開
	⑦ 2月	昭和大学歯学部で定例歯学教育研究シンポジウム&ワークショップの開催
	⑧ 3月	自己評価委員会開催，報告書作成
28年度	① 4月	連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成継続
	② 6月	シミュレーターの配布継続（3校×1台） 連携大学にコンテンツ作成システムを整備（4校×1台）
	③ 8月	がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催 事業推進委員会（ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ） 連携校間や協力施設への教員FD継続，学生交流継続
	④ 10月	各連携大学の特徴あるCWシラバスの修正，実施
	⑤ 2月	長崎大学歯学部で定例シンポジウム&ワークショップ 第2回外部評価委員会開催
	⑥ 3月	自己評価委員会開催，報告書作成
29年度	① 4月	連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成継続
	② 6月	シミュレーターの配布継続（3校×1台） 連携大学にコンテンツ作成システムを整備（2校×1台）
	③ 8月	がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催 事業推進委員会（ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ） 連携校間や協力施設への教員FD継続，学生交流継続
	④ 10月	各連携大学の特徴あるCWシラバスの修正，実施
	⑤ 11月	初期研修医や医学部歯科口腔外科の研修医のCWについて試行
	⑥ 2月	日本大学歯学部で定例シンポジウム&ワークショップ開催
	⑦ 3月	自己評価委員会開催，報告書作成
30年度	① 4月	連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成継続
	② 6月	シミュレーターの配布継続（2校×1台）
	③ 8月	がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催 事業推進委員会（ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ） 連携校間や協力施設への教員FD継続，学生交流継続
	④ 11月	初期研修医や医学部歯科口腔外科の研修医のCWについて実施
	⑤ 2月	九州大学歯学部で総括シンポジウム開催 第3回外部評価委員会開催，
	⑥ 3月	自己評価委員会開催，報告書作成
31年度 [財政支援 終了後]	① 4月	岡山大学のサーバーとコンテンツ視聴システムの保守
	② 4月	連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成継続
	③ 8月	がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催 事業推進委員会（ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ） 連携校間や協力施設への教員FD継続，学生交流継続
	④ 10月	各連携大学の特徴あるCWシラバスの修正，実施
	⑤ 11月	初期研修医や医学部歯科口腔外科の研修医のコースワークについて実施
	⑥ 2月	大阪大学歯学部で定例シンポジウム&ワークショップ開催
	⑦ 3月	自己評価委員会開催，報告書作成

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部、歯学部を擁する全連係大学（北海道大学歯学部、大阪大学歯学部、九州大学歯学部、長崎大学歯学部、鹿児島大学歯学部、岩手医科大学歯学部、日本大学歯学部、昭和大学歯学部）
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1（生活習慣病と口腔）
対象者	歯学生4～6年次生（各大学においてこれら学年のいずれかで2単位のプログラムを実施する）
修業年限（期間）	1年以内（各大学2単位・90分×15回の授業を行い修業させる。この期間は大学により異なる。）
養成すべき人材像	・生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔・全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを持った歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの2単位を履修し、プログラムの最終回に行う内容に即した課題試験に合格すること。【全参加校必修】 履修方法： <u>次項の履修科目内容を新設（2単位）</u> し、履修させる。試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題—レポート提出を反復させる。
履修科目等	<全参加校必修科目> 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1（生活習慣病と口腔）（2単位） 各校で各回の担当者が直接学生に講義、またはe-learningあるいはDVD視聴等で教授する。 各回の講義内容は以下の通り。 第1回：歯科保健対策の歴史と潮流～健康日本21 第2回：地元地方自治体の歯科保健・ヘルスプロモーション施策 第3回：生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔・全身健康学」の歴史と潮流 第4回：歯学生のためのメタボリックシンドローム概説 第5回：口腔の健康とメタボリックシンドローム—糖尿病 第6回：口腔の健康とメタボリックシンドローム—肥満 第7回：妊婦・胎児の栄養代謝、子宮内胎児発育遅延とメタボリックシンドローム 第8回：口腔の健康と早産、低体重児出産 第9回：歯学生のための動脈硬化疾患概説 第10回：口腔の健康と心血管系疾患 第11回：歯学生のための睡眠時無呼吸症候群概説 第12回：睡眠時無呼吸症候群への歯科的アプローチ 第13回：歯学生のための認知症疾患概説 第14回：口腔の健康と認知症 第15回：総合討論

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	生活習慣病等への対策・ヘルスプロモーションにおける「口腔から全身への健康学」について近年先導的な役割を担ってきた大学の<u>歯学教育を連携大学群で共有し、均てん化することに新規性かつ独創性</u>がある。 <u>歯学と医学そして行政との融合教育を行うことも新規性かつ独創性</u>である。						
指導体制	教育プログラム統括： 岡山大学・森田学教授（歯学部副学部長、教務委員長） 九州大学・西村英紀教授（歯周病学） 各回の講義およびe-learning、DVD教材担当者は以下の通り。 第1回：岡山大学・森田学教授（歯学部副学部長、教務委員長） 第2回：岡山市保健所・河本幸子課長補佐 第3回：岡山大学・高柴正悟教授（歯周病学） 第4回：岡山大学・四方賢一教授（糖尿病学） 第5回：九州大学・西村英紀教授（歯周病学） 第6回：長崎大学・斎藤俊行教授（予防歯科学） 第7回：岡山大学・増山寿准教授（産科学） 第8回：鹿児島大学・長谷川梢助教（歯周病学） 第9回：岡山大学・三好亨助教（循環器内科学） 第10回：長崎大学・中山浩次教授（口腔細菌学） 第11回：岡山大学・谷山真規子助教（循環器内科学） 第12回：岡山大学・水口一講師（歯科補綴学） 第13回：岡山大学・阿部康二教授（神経内科学） 第14回：岡山大学・江國大輔講師（予防歯科学） 第15回：岡山大学・森田学教授（歯学部副学部長、教務委員長） 平成28年度以降の全連携校による実施において、各大学で活躍する専門家が講義担当できる場合、e-learningあるいはDVD視聴によらず、直接講義を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	平成26年度： 担当教員のFDを行うとともに、次年度以降申請校で実施できるようカリキュラム編成を行う。全連携校は平成28年度から実施できるよう、カリキュラム編成を開始する。 平成27年度： 主幹校である岡山大学で受入を開始する。引き続き担当教員のFDを行うとともに、次年度以降全連携校で受入ができるよう、カリキュラム編成の確立を行う。 平成28年度： 全連携校で受入を開始する。						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学 歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校 歯学生	0	0	545	545	545	1,635
							0
							0
	計	0	55	600	600	600	1,855

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部、歯学部を擁する全連係大学（北海道大学歯学部、大阪大学歯学部、九州大学歯学部、長崎大学歯学部、鹿児島大学歯学部、岩手医科大学歯学部、日本大学歯学部、昭和大学歯学部）
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ2（急性期医療）
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中か実施後）
修業年限（期間）	1年以内（各大学2単位・90分×15回の授業を行い修業させる。この期間は大学により異なる。）
養成すべき人材像	・周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法など、急性期医療における「口腔・全身健康学」の知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを持った歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの2単位を履修し、プログラムの最終回に行う内容に即した課題試験に合格すること。【全参加校必修】 履修方法： <u>次項の履修科目内容を新設（2単位）</u> し、履修させる。試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題レポート提出を反復させる。
履修科目等	<全参加校必修科目> 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ2（急性期医療）（2単位） 各校で各回の担当者が講義を行う。講義担当者の派遣が困難である場合はe-learningあるいはDVD視聴で講義と同等の内容を教授する。 各回の講義内容は以下の通り。 第1回：周術期口腔機能管理総論 第2回：歯学生が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流 第3回：周術期歯科管理学各論講義1： 肺がん手術の実際―歯学生が知っておくべき知識 第4回：周術期歯科管理学各論講義2： 食道がん手術の実際―歯学生が知っておくべき知識 第5回：周術期歯科管理学各論講義3： 心臓血管外科手術の実際―歯学生が知っておくべき知識 第6回：周術期歯科管理学各論講義4： 集中治療の実際―歯学生が知っておくべき知識 第7回：周術期歯科管理学各論講義5：周術期看護学 第8回：歯学生が知っておくべき臨床腫瘍学総論 第9回：がん口腔支持療法各論講義1： 頭頸部放射線治療の実際と口腔内合併症への対策 第10回：がん口腔支持療法学各論講義2： がん化学療法の実際と口腔内合併症への対策 第11回：急性期医療における栄養学 第12回：歯学生が知っておくべき急性期看護学 第13回：災害時医療 第14回：災害時の歯科の役割1（阪神・淡路大震災，JR宝塚線脱線事故） 第15回：災害時の歯科の役割2（東日本大震災）

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法などにおける「口腔から全身への健康学」について近年<u>先導的な役割を担ってきた大学の歯学教育を連携大学群で共有し、均てん化することに新規性かつ独創性がある。医学、看護学、栄養学との融合を図ることも新規性かつ独創性</u>である。						
指導体制	教育プログラム統括： 岡山大学・飯田征二教授（口腔外科学、歯科系代表副病院長、医療支援歯科治療部部長）、 岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学、医療支援歯科治療部副部長） 各回の講義およびe-learning、DVD教材担当者は以下の通り。 第1回：岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学） 第2回：岡山大学・森田潔学長（麻酔・蘇生学） 第3回：岡山大学・宗淳一講師（呼吸器外科学） 第4回：岡山大学・白川靖博講師（消化管外科学） 第5回：岡山大学・佐野俊二教授（心臓血管外科学） 第6回：岡山大学・森松博史教授（周術期管理センター、集中治療学） 第7回：岡山大学・足羽孝子看護師長（岡山大学病院周術期管理センター・クリティカルケア看護教育担当師長） 第8回：岡山大学・谷本光音教授（臨床腫瘍学） 第9回：岡山大学・松崎秀信助教（歯科放射線学） 第10回：岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学） 第11回：岡山大学・坂本八千代栄養管理室長（岡山大学病院臨床栄養部） 第12回：岡山大学・保科英子教授（急性期看護学） 第13回：岡山大学・氏家良人教授（救急医学） 第14回：兵庫医科大学・岸本裕充教授（歯科口腔外科学） 第15回：岩手医科大学・城茂治教授（歯科麻酔学） 平成28年度以降の全連携校による実施において、各大学で活躍する専門家が講義担当できる場合、e-learningあるいはDVD視聴によらず、直接講義を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	〔平成26年度： 担当教員のFDを行うとともに、次年度以降申請校で実施できるようカリキュラム編成を行う。全連携校は平成28年度から実施できるよう、カリキュラム編成を開始する。〕 平成27年度： 主幹校である岡山大学で受入を開始する。引き続き担当教員のFDを行うとともに、次年度以降全連携校で受入ができるよう、カリキュラム編成の確立を行う。 平成28年度： 全連携校で受入を開始する。						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学 歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校 歯学生	0	0	545	545	545	1,635
							0
							0
	計	0	55	600	600	600	1,855

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部、歯学部を擁する全連係大学（北海道大学歯学部、大阪大学歯学部、九州大学歯学部、長崎大学歯学部、鹿児島大学歯学部、岩手医科大学歯学部、日本大学歯学部、昭和大学歯学部）
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ3（在宅介護医療）
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中か実施後）
修業年限（期間）	1年以内（各大学2単位・90分×15回の授業を行い修業させる。この期間は大学により異なる。）
養成すべき人材像	・回復期、慢性期医療および在宅医療における「口腔・全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療および在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し実践するマインドを持った歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの2単位を履修し、プログラムの最終回に行う内容に即した課題試験に合格すること。【全参加校必修】 履修方法： 次項の履修科目内容を新設（2単位）し履修させる。試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題レポート提出を反復させる。
履修科目等	<全参加校必修科目> 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ3（在宅介護医療）（2単位） 各校で各回の担当者が講義を行う。講義担当者の派遣が困難である場合はe-learningあるいはDVD視聴で講義と同等の内容を教授する。 各回の講義内容は以下の通り。 第1回：回復期、慢性期医療および在宅医療における「口腔・全身健康学」総論 第2回：臨床死生学、臨床倫理学1．高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給の導入を中心として 第3回：臨床死生学、臨床倫理学2．延命医療と臨床現場：人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学 第4回：歯学生が知っておくべき緩和医療学 第5回：超高齢社会における歯科医療と多職種連携 第6回：在宅医療推進のための多職種連携—柏プロジェクト 第7回：地域医療現場の魅力 第8回：老年学における歯科の位置付け 第9回：在宅医療における歯科の重要性 第10回：訪問看護の役割 第11回：中山間・過疎地域における地域包括ケア 第12回：自治体による健康寿命増進 第13回：在宅歯科医療の実際 第14回：回復期、慢性期医療および在宅医療における摂食嚥下機能訓練の実際 第15回：総合討論

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<u>終末期医療までもテーマの一つに据えることが新規性かつ独創性</u>を有する。歯科医師の多くは開業医の医療提供体制で地域医療を担っているが、生活の自立度が比較的保たれた患者を診ることが多く、患者の終末期・死も含め、人の一生を見据える歯科医療の在り方を考える経験が少ない。本教育プログラムでは、<u>東京大学死生学・応用倫理センターの協力を得て、歯学教育に初めて死生学を導入</u>する。このことが患者の終末期・死も含め、人の一生を見据えた健康長寿社会の実現のために歯科医療がどうあるべきかを考え、貢献する歯科医師のマインドの醸成に繋がる。 医療人として必要な哲学観、倫理観とともに、現社会が回復期、慢性期医療および在宅医療で歯科医療に求めているもの、実践につながる知識を、<u>医学、看護学の専門家を交えて教授することも新規性かつ独創性</u>である。<u>東京大学高齢社会総合研究機構の協力を得て、最先端の地域包括ケアである柏プロジェクトを題材とすることも独創性</u>である。						
指導体制	教育プログラム統括： 岡山大学・宮脇卓也教授（歯科麻酔学、教育担当副病院長）、 村田尚道助教（摂食嚥下リハビリテーション学） 各回の講義およびe-learning、DVD教材担当者は以下の通り。 第1回＊：岡山大学・宮脇卓也教授（歯科麻酔学、教育担当副病院長） 第2、3回：東京大学・清水哲郎特任教授、会田薫子特任准教授（死生学・応用倫理学） 第4回＊：岡山大学・松岡順治教授（緩和医療学） 第5、6回：東京大学・飯島勝矢准教授（老年医学、老年学） 第7回＊：岡山大学・佐藤勝教授（地域医療学） 第8回：東京都健康長寿医療センター・平野浩彦副部長（老年歯科学） 第9回：国立長寿医療研究センター・角保徳部長（老年歯科学） 第10回＊：岡山大学・谷垣静子教授（在宅看護学） 第11回＊：岡山大学・浜田淳教授（医療政策・地域医療学） 第12回＊：岡山大学・土居弘幸教授（疫学・衛生学） 第13回＊：岡山大学・吉富達志臨床講師（地域医療学） 第14回＊：岡山大学・村田尚道助教（摂食嚥下リハビリテーション学） 第15回＊：岡山大学・宮脇卓也教授（歯科麻酔学、教育担当副病院長） ＊平成28年度以降の全連携校による実施において各大学で活躍する専門家が講義担当できる場合、e-learningあるいはDVD視聴によらず直接講義を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	〔平成26年度： 担当教員のFDを行うとともに、次年度以降申請校で実施できるようカリキュラム編成を行う。全連携校は平成28年度から実施できるよう、カリキュラム編成を開始する。〕 平成27年度： 主幹校である岡山大学で受入を開始する。引き続き担当教員のFDを行うとともに、次年度以降全連携校で受入ができるよう、カリキュラム編成の確立を行う。 平成28年度： 全連携校で受入を開始する。						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校歯学生	0	0	545	545	545	1,635
							0
							0
	計	0	55	600	600	600	1,855

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学病院卒後臨床研修センター 歯科部門
教育プログラム・コース名	岡山大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 「口腔・全身健康実践」コース —周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療—
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・周術期歯科管理、摂食嚥下機能回復、在宅歯科医療を担うことのできる健康長寿社会を実現する医療・介護ニーズに対応した歯科医療人。 ・広い一般医学知識を持ち、かつチーム医療および在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し、それらを実践できる研修歯科医。
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの全セミナーを受講した後、周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療の各項目について実地研修を受け、内容に即した課題試験に合格すること【H28年度まではセミナーは自由選択、実地研修は現プログラムを厚生労働省の認可範囲内で高度化して必須とする。厚生労働省から研修プログラム変更が認められた後、H29年度より必須】。 履修方法： <u>次項の履修科目内容からなるコースを新設し履修させる（学部教育で1単位分）</u>。課題試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題でのレポート形式での回答を求める。課題レポート提出を反復させる。
履修科目等	<岡山大学卒後臨床研修自由選択（～H28）、必修（H29～）科目> 「口腔・全身健康実践」コース —周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療— 各校で各回の担当者が講義・実地研修を行う。講義担当者の派遣が困難である場合はe-learningあるいはDVD視聴で講義と同等の内容を教授する。 各回のセミナー内容は以下の通り。（90分×15回） 第1回：「口腔・全身健康」プログラムの概要 第2回：研修歯科医が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流 第3回：周術期歯科管理学各論講義1： 肺がん手術の実際—研修歯科医が知っておくべき知識 第4回：周術期歯科管理学各論講義2： 食道がん手術の実際—研修歯科医が知っておくべき知識 第5回：周術期歯科管理学各論講義3： 心臓血管外科手術の実際—研修歯科医が知っておくべき知識 第6回：周術期口腔機能管理の実際 第7回：臨床死生学、臨床倫理学1. 高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給の導入を中心として 第8回：臨床死生学、臨床倫理学2. 延命医療と臨床現場：人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学 第9回：超高齢社会における歯科医療と多職種連携 第10回：在宅医療推進のための多職種連携—柏プロジェクト 第11回：老年学における歯科の位置付け 第12回：在宅医療における歯科の重要性 第13回：在宅歯科医療の実際 第14回：回復期、慢性期医療および在宅医療における摂食嚥下機能訓練の実際 第15回：総合討論 各セミナーが終了以降に、それぞれ研修歯科医ごとに1週間程度の実地研究を行う。なお、周術期歯科管理、摂食嚥下機能回復については現研修を高度化し大学病院内で、在宅歯科医療については外部協力施設において実施する。

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<u>急性期医療から終末期医療までをテーマに据えることが新規性かつ独創性</u>を有する。歯科医師の多くは開業医の医療提供体制で地域医療を担っているが、生活の自立度が比較的保たれた患者を診ることが多く、患者の終末期・死も含め、人の一生を見据える歯科医療の在り方を考える経験が少ない。本教育プログラムでは、<u>岡山大学病院で展開される臓器移植医療をはじめとした高度な医療現場を卒後臨床教育の場として利用するとともに、東京大学死生学・応用倫理センターの協力を得て、卒後臨床研修（歯科）に初めて死生学を導入</u>する。このことが患者の終末期・死も含め、人の一生を見据えた健康長寿社会の実現のために歯科医療がどうあるべきかを考え、貢献する歯科医師のマインドの醸成に繋がる。 医療人として必要な哲学観、倫理観とともに、現社会が回復期、慢性期医療および在宅医療で歯科医療に求めているもの、実践につながる知識を、医学の専門家を交えて教授することも新規性かつ独創性である。<u>東京大学高齢社会総合研究機構の協力を得て、最先端の地域包括ケアである柏プロジェクトも題材とすることも独創性</u>である。						
指導体制	教育プログラム統括：岡山大学・鳥井康弘教授（卒後臨床研修センター歯科研修部門長） 各回のセミナー担当者は以下の通り。 第1回：岡山大学・鳥井康弘教授（卒後臨床研修センター歯科研修部門長） 第2回：岡山大学・森田潔学長（麻酔・蘇生学） 第3回：岡山大学・宗淳一講師（呼吸器外科学） 第4回：岡山大学・白川靖博講師（消化管外科学） 第5回：岡山大学・佐野俊二教授（心臓血管外科学） 第6回：岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学） 第7、8回：東京大学・清水哲郎特任教授、会田薫子特任准教授（死生学・応用倫理学） 第9、10回：東京大学・飯島勝矢准教授（老年医学、老年学） 第11回：東京都健康長寿医療センター・平野浩彦副部長（老年歯科学） 第12回：国立長寿医療研究センター・角保徳部長（老年歯科学） 第13回：岡山大学・吉富達志臨床講師（地域医療学） 第14回：岡山大学・村田尚道助教（摂食嚥下リハビリテーション学） 第15回：岡山大学・鳥井康弘教授（卒後臨床研修センター歯科研修部門長） セミナーの一部は講師招聘の現実問題から学部学生対象のものと同時開催とする。その他については病院での診療研修（業務）時間外において開催する。 また、実地研修は、周術期歯科管理、摂食嚥下機能回復については大学病院の各専門領域（岡山大学病院医療支援歯科治療部およびスペシャルニーズ歯科センター）の指導歯科医が各診療室および院内病棟ラウンドにおいてマンツーマン体制で指導する。 在宅医療の実地研修については、厚生労働省に協力研修施設として申請し許可を得た施設で行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	研修歯科医教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	平成27年4月： 在宅医療実地研修以外の受入開始。 平成29年4月： 在宅医療実地研修施設が厚生労働省の協力研修施設として認められ次第、すべての研修の受入開始。						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学病院 研修歯科医	15-23	15-23	15-23	65	65	175-199
							0
							0
							0
	計	15-23	15-23	15-23	65	65	175-199

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 1. 要介護高齢者を模したシミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習
対象者	歯学生4年次生
修業年限（期間）	5日間
養成すべき人材像	・医療人としての自覚を持ち、健康長寿社会を実現する医療・介護ニーズに対応できるマインドをもつ歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本実習を履修し、試験に合格すること【岡山大学必修、連携大学自由選択】 履修方法： 診療参加型臨床実習実施期間中に 5日間で総計30時間の実習（1単位）を新設し履修させる。内容は次項の通り。岡山大学歯学部は必修とする。プログラムの最終回に内容に即したレポート形式による課題試験を行う。不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題—レポート提出を反復させる。
履修科目等	<岡山大学必修科目、他大学自由選択科目> 高齢者介護シミュレーションおよび介護老人保健施設見学、チュートリアル実習 ・実習方法： 高齢者介護シミュレーターを用いて高齢者介護シミュレーション実習を行った後、学生を大学から地域の要介護高齢者医療現場に連れだし、介護医療現状で歯科医療がどのように参画ができるかを経験させる。さらに現状の問題点を改善するための方策について考えさせる。多職種連携による認知症老人の栄養管理や感染制御について問題解決型学習（PBL）を行う。 本演習は、臨床実習の前に行われ、Early Exposureとしても機能する。少人数グループ毎に、2日目と4日目に一人の要介護高齢者および一人の介護職員と二度接する機会を設け、最後に発表会で経験した問題点とその解決策を議論する。 ・初日ガイダンス（1日目）： ディスカッションを通じて5日間の学習目標を設定 ・シミュレーション実習（1日目）： 岡山大学が中心となり開発した高齢者介護シミュレーターを用いて高齢者介護シミュレーション実習を実施 ・振り返り： 中間日（3日目）と最終日（5日目）に振り返りを行い互いの学びを共有・構造化 ・要介護高齢者医療現場見学実習（2、4日目）： 連携要介護高齢者医療現場同行実習を通じて介護医療現状で歯科医療がどのように参画ができるかを考えさせる。 ・介護職員インタビュー（4日目） 介護老人保健施設の現役介護職員に話を聞き、介護老人保健施設の現場で臨床研修を行う意義を知る。 ・経験した問題点とその解決策についての発表会での議論（5日目）

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<u>岡山大学が中心となり開発した高齢者介護シミュレーターを用いて高齢者介護シミュレーション実習を実施することに新規性がある。</u> <u>介護老人保健施設で展開する高齢者介護医療の現場に学生を参画させることが新規性かつ独創性を有する。</u>						
指導体制	教育プログラム統括： 岡山大学・窪木拓男教授（歯学部長） 岡山大学・宮脇卓也教授（岡山大学病院副病院長（教育担当）） 岡山大学・江草正彦教授（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター） 担当教員： 岡山大学・前田茂准教授（岡山大学病院歯科麻酔科） 岡山大学・森貴幸助教（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター） 岡山大学・村田尚道助教（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター） 岡山大学・前川享子助教（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター）						
教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想	臨床参加型実習のEarly Exposureとして機能させ、将来医療人として活躍する自覚を持たせて臨床参加型実習に臨ませる。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学 歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校 歯学生	0	0	15	15	15	45
							0
							0
	計	0	55	70	70	70	265

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中）
修業年限（期間）	5日間（診療参加型臨床実習実施期間中）
養成すべき人材像	・がんなどの生と死の狭間におかれ闘病する患者に対応するチーム医療に参加経験があり、将来の医療人としての自覚を持った歯学生 ・健康長寿社会を実現する医療・介護ニーズに対応できるマインドをもつ歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本実習を履修し、試験に合格すること【岡山大学必修、連携大学自由選択】 履修方法： 診療参加型臨床実習実施期間中に 5日間で総計30時間の実習（1単位）を新設し履修させる。内容は次項の通り。岡山大学歯学部は必修とする。プログラムの最終回に内容に即したレポート形式による課題試験を行う。不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題—レポート提出を反復させる。
履修科目等	<岡山大学必修科目、他大学自由選択科目> 高度医療支援口腔管理・周術期口腔機能管理実習 ・実習方法：1組2名ずつ、H26年10月から28クールに分かれて連続5日間の実習を岡山大学生に対して実施（年間計56名）、H27年10月から35クールに分かれて連続5日間の実習を岡山大学生と他大学選択履修者に実施（年間計70名） ・初日ガイダンス：ディスカッションを通じて5日間の学習目標を設定 ・振り返り：中間日と最終日に振り返りを行い互いの学びを共有・構造化 ・チーム医療同行：周術期管理センター、腫瘍センター、頭頸部癌センターなどの現場同行実習を通じて各職種の役割、ならびに各職種が歯科医師に求める役割を知る。 ・レジデントインタビュー：チーム医療の歯科側の窓口的な治療部（岡山大学病院医療支援歯科治療部）で研修中の現役レジデントに話を聞き、チーム医療の現場で臨床研修を行う意義を知る。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	岡山大学病院は医療関係の歯科側の窓口的な業務および本院が展開する臓器移植等の高度な医療に対応するにあたり機動的な歯科治療を専門に行う独立治療部（医療支援歯科治療部）を全国に先駆けて設置している。岡山大学病院が展開する高度な医療におけるチーム医療の場に学生をその一員として参画させることが新規性かつ独創性を有する。 医学・歯学教育のアウトカムとしてプロフェッショナリズムが重要視されている。医療人としての倫理・規範・行動は座学のみならず、「心を揺り動かすような体験」が必要である。岡山大学病院が展開する臓器移植医療などの高度医療現場を教育の場として利用することに新規性かつ独創性がある。

指導体制	岡山大学病院医療支援歯科治療部が統括する。 教育プログラム統括： 岡山大学・飯田征二教授（歯科系代表副病院長、医療支援歯科治療部部长） 担当教員： 岡山大学・曾我賢彦准教授（医療支援歯科治療部副部长）、 岡山大学・山中玲子助教（医療支援歯科治療部助教・周術期管理歯科部門長） 実習協力者： 岡山大学・吉富愛子医員、緒形孝子医員、森谷有三英医員（医療支援歯科治療部） 岡山大学・小崎弘貴医員（周術期管理センター）、 岡山大学・室美里医員（レジデント）（医療支援歯科治療部）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	平成26年10月： 新年度の診療参加型臨床実習が始まる。それに合わせて受け入れを開始する。 平成28年度以降： 全大学の共通プログラム開始後、希望する15名程度を全国の連携校より受入れる。						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学歯学生	55	55	55	55	55	275
	全連携校歯学生	0	0	15	15	15	45
							0
							0
	計	55	55	70	70	70	320

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 3. 臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中）
修業年限（期間）	2日間（診療参加型臨床実習実施期間中）
養成すべき人材像	- 高度急性期から在宅まで多様な場面で医師が果たすべき役割を理解している歯学生 - 在宅医療を担っている医療・介護多職種連携チームを形成するスタッフの役割を理解している歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 原則として全日程に出席して事後レポートを提出すること【岡山大学必修、連携大学自由選択】 履修方法： <u>次項の内容の2日間（計15時間・0.5単位）の実習を新規に開講する。</u> 岡山大学生は歯学部必修科目として、他連携大学生は自由選択科目として履修
履修科目等	<岡山大学必修科目、他大学自由選択科目> 在宅・訪問歯科診療実習および地域歯科医療実習（2日間計15時間・0.5単位） 岡山大学生は診療参加型臨床実習の単位取得にあたり履修を必須とする。 ・シミュレーション実習：在宅・訪問歯科診療のためのシミュレーション実習を事前に行い、在宅・訪問歯科診療の基本的な知識・技術・態度を学ぶ。 ・派遣先地域医療機関（病院・開業歯科医院）：学生は、地域医療機関1カ所1日で、2か所で実習する。 ・実習方法：学生は地域医療機関に行き、指導歯科医によるオリエンテーションを受けた後、在宅または介護施設への訪問歯科診療に同行する。そこで、指導歯科医の指導のもと、在宅・訪問歯科診療の介助または基本歯科処理を行い、在宅・訪問歯科診療の実践を学ぶ。 ・介護多職種との連携：学生は、在宅・訪問歯科診療現場で、医療だけでなく介護に関わる多職種のスタッフとコミュニケーションすることで、実習を通じて多職種と連携したチーム医療の重要性を実感で学ぶ。 ・ディスカッション：学生は、指導を受けた地域医療機関で、指導歯科医と在宅・訪問歯科診療に必要な知識、態度、技術についてディスカッションし、診療の現場で学んだ内容を深く掘り下げて習得する。 ・学生に対する評価：地域医療機関の指導歯科医は、学生の実習態度、在宅・訪問歯科診療に関する知識、ディスカッションに前向きに取り組んだかどうかについて評価し、大学の教務委員会に提出する。 ・振り返り：現場での実習後、大学内での「振り返り」に参加し、自験症例についてプレゼンテーションする。ここでは、他の施設での他の学生が経験した症例を知ること、より多くの症例について知る。在宅・訪問歯科診療および地域歯科医療について広く学び、また解決すべき問題点をまとめる。

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	・在宅・訪問歯科診療のためのシミュレーション教育を事前に行うことによって、在宅・訪問歯科診療の現場で、単に見学だけにとどまらず、診療に参加できる能力を備えてから現場に送り出すため、より充実した実習を行うことができる。 ・多職種連携によるチーム医療は、講義の中で理解するだけでなく、在宅・訪問歯科診療の現場で体験することで、その重要性を実感することができる。 ・在宅・訪問歯科診療に関する実習は、2カ所でしかできないが、「振り返り」で他の症例を知ること、在宅・訪問歯科診療に共通の問題に気づくことができる。その問題を解決できる創造力を涵養したい。 ・学生は実習内容を評価するが、同時に自己評価をすることになっている。一方方向の教育ではなく、学生の自ら学ぶ姿勢を引き出すことが目的である。						
指導体制	教育プログラム統括：岡山大学・宮脇卓也教授（教育担当副病院長、歯科麻酔学） ・派遣先地域医療機関の指定および指導歯科医の任命：派遣先地域医療機関および指導歯科医は、大学教務委員会および教授会が1年ごとに審査する。審査結果に基づき、当地域医療機関と協定を結び、指導歯科医を任命する。 ・指導歯科医に対するFD：毎年定期的に、指導歯科医を対象としたFDを開催し、教育の質を担保できるようにする。 ・実習内容の評価：地域医療機関での実習内容について、学生が評価する体制を整える。具体的には、指導歯科医とのディスカッションの内容を学生が評価し、教務委員会に提出する。実習内容の評価をもとに、大学の教務委員会が指導内容をチェックする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	平成26年10月： 次期診療参加型実習の開始に合わせて受け入れを開始する。 平成28年度以降： 全大学の共通プログラム開始後、希望する約10名程度を全国の連携校より受入する。						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学 歯学生	55	55	55	55	55	275
	全連携校 歯学生	0	0	10	10	10	30
							0
							0
	計	55	55	65	65	65	305

教育プログラム・コースの概要

大学名等	北海道大学病院卒後臨床研修センター歯科卒後臨床研修部門
教育プログラム・コース名	北海道大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療の周術期における口腔管理研修コース
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟し、歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる研修歯科医
修了要件・履修方法	修了要件： 講義受講後にレポートを提出し、研修終了後に運営委員会による口頭試問に合格すること。【北海道大学病院卒後臨床研修センター選択科目】 履修方法： 次項の履修科目内容のコース（学部教育における約1単位相当分）を新設し、希望する研修歯科医8名程度に選択履修させる。次項の内容は既存の研修を高度化させるものであるが、厚生労働省に認可されたプログラムの範囲内であり、認可申請を待たずとも開始可能である。
履修科目等	<北海道大学卒後臨床研修必修科目> がん治療の周術期における口腔管理研修コース - がん治療の周術期管理セミナー（90分×7回） 第1回：がん化学療法全般 第2回：がん放射線療法全般 第3回：耳鼻咽喉科領域のがん治療 第4回：血液内科領域のがん治療 第5回：小児科領域のがん治療 第6回：がん治療と口腔内合併症 第7回：がん患者の歯科治療と医療連携 - がん化学療法前の口腔管理演習（90分×1回） 新患担当症例のプレゼンテーションと問題点のディスカッション - がん治療周術期の口腔管理研修 （1）がん化学療法前の口腔管理を目的とした新患の診察治療（2週間の研修を1回） （2）耳鼻咽喉科、血液内科、小児科の各病棟への周術期口腔管理の往診（各科病棟2週間ずつ、計6週間の研修）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北海道大学病院では平成26年度から、歯科診療センターと腫瘍センターとの連携が強化され、ビスフォスフォネート製剤や抗ランクル抗体製剤使用前には歯科受診による口腔内の精査ならびに治療が必須化された。医科からの依頼患者は口腔ケア部門で一括して口腔ケア専門の担当医が対応することになったが、研修歯科医が指導医のもとで診察と治療を行うことにより診断や治療の実践的教育が可能となる。さらに、耳鼻咽喉科、血液内科、小児科病棟への往診の見学やカンファレンスへの参加により、多様ながん治療における歯科医療連携の重要性を体験することが可能となる。 <u>地域におけるがん患者の医療連携に関する一連の研修は、従来、開業医・勤務医に対して講習会により行ってきたものであるが、卒直後から大学病院で研修歯科医に対して行うことに新規性と独創性がある。</u>

指導体制	教育プログラムの統括 北海道大学・井上哲教授（臨床教育部門） 北海道大学・柏崎晴彦講師（高齢者歯科） 北海道大学・浅香卓也助教（口腔診断内科） 各履修プログラムの担当者 1. がん治療の周術期管理講義 第1回：北海道大学病院腫瘍センター・小松嘉人部長（化学療法部） 第2回：北海道大学・大森桂一講師（歯科放射線科） 第3回：北海道大学・本間明宏准教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科） 第4回：北海道大学・重松明男助教（血液内科） 第5回：北海道大学・井口晶裕助教（小児科） 第6回：北海道大学・山崎裕教授（高齢者歯科） 第7回：北海道大学・北川善政教授（口腔診断内科） 2. がん化学療法前の口腔管理演習 北海道大学・井上哲教授（臨床教育部門） 鄭漢忠教授（口腔顎顔面外科） 3. がん治療周術期の口腔管理研修 （1）北海道大学・浅香卓也助教（口腔診断内科） 北海道大学・高橋大郎助教（予防歯科） （2）北海道大学・吉川和人助教（口腔診断内科） 北海道大学・柏崎晴彦講師（高齢者歯科） 北海道大学・菊入崇助教（小児・障害者歯科）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	近年、がん患者の歯科医療連携は、地域歯科医師会を中心に勤務医・開業医に対し行われているが一部の地域を除き十分な成果が得られているとは言い難い。本プログラムにより研修医の段階でこの医療連携に精通させ、地域歯科医療の核になる人材を育成する。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	北海道大学病院研修歯科医		8	8	8	8	32
	計	0	8	8	8	8	32

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修センター
教育プログラム・コース名	大阪大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・口腔機能、栄養摂取の評価、高齢者の内科的疾患、認知機能、運動機能の簡単な評価ならびに多職種連携の必要性を理解し、実践できる、リサーチマインドを持った研修歯科医
修了要件・履修方法	修了要件： コース受講後にレポートを提出し、担当教員による口頭試問に合格すること。【大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修センター選択コース】 履修方法： 次項の履修科目内容のコース（学部教育における1単位相当分・30h分）を新設し、希望する研修歯科医5名程度に選択履修させる。次項の内容は既存の研修を高度化させるものであるが、厚生労働省に認可されたプログラムの範囲内であり、認可申請を待たずとも開始可能である。
履修科目等	＜大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修センター選択コース＞ 多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース ・研修方法： 各日2名ずつローテーションで、H26年10月から1日に6時間の実習を年間5回研修させる。各研修医は年間計30時間分（学部教育の1単位相当分）のコース研修を行う。 ・ガイダンス： 実習初日に実習内容を説明し、学習目標を設定 ・研究現場同行： 高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し実践する。 ・調査後： データの入力、整理を行う。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の方を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。この <u>共同研究に参加し、それぞれの観点を学び、口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習することに新規性かつ独創性</u> がある。 <u>高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な人との交流を図り、異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラム</u> である。

指導体制	教育プログラム統括： 大阪大学・前田芳信教授（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 担当教員： 大阪大学・神出計教授（医学系研究科，老年内科） 大阪大学・権藤恭之准教授（人間科学研究科，臨床死生学・老年行動学） 大阪大学・北村正博准教授（歯学研究科，歯周病学分野） 大阪大学・池邊一典講師（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 大阪大学・松田謙一助教（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 実習協力者： 大阪大学・小川泰治医員，榎木香織医員，岡田匡史医員（有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。						
受入開始時期	平成27年10月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	大阪大学歯学部附属病院研修歯科医	5	5	5	5	5	25
							0
							0
							0
	計	5	5	5	5	5	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学大学院歯学研究科
教育プログラム・コース名	大阪大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 異分野連携に資する歯科医学研究者養成演習
対象者	博士課程大学院生
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・口腔機能、栄養摂取の評価、高齢者の内科的疾患、認知機能、運動機能の簡単な評価ならびに多職種連携の必要性を理解し、実践するにあたり指導的能力を持った臨床研究のリーダー
修了要件・履修方法	修了要件： 実習後に研究結果を提出し、担当教員による口頭試問に合格すること。 【大阪大学大学院歯学研究科選択コース】 履修方法： 次項の履修科目内容の 実習（1単位分・30時間の演習）を新設 し、希望する大学院生3名程度に履修させる。
履修科目等	<大阪大学大学院歯学研究科選択科目> 異分野連携に資する歯科医学研究者養成演習（1単位，6時間×5回で30時間） ・実習方法： 各日2名ずつローテーションで、H26年10月から1日間（180分2コマ・6h）の演習を年間5回履修させる。各大学院生は年間計30時間分（1単位分）演習を行う。 ・ガイダンス： 初日に実習内容を説明し、学習目標を設定 ・研究現場同行： 高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し実践する。 ・調査後： データの入力、整理、統計分析を行う。 ・データをまとめ、学会発表を行う。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の方を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。<u>歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。この共同研究に参加し、それぞれの観点を学び、口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習することに新規性かつ独創性がある。</u> 高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な人との交流を図り、<u>異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラム</u>である。

指導体制	教育プログラム統括： 大阪大学・前田芳信教授（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 担当教員： 大阪大学・神出計教授（医学系研究科，老年内科） 大阪大学・権藤恭之准教授（人間科学研究科，臨床死生学・老年行動学） 大阪大学・北村正博准教授（歯学研究科，歯周病学分野） 大阪大学・池邊一典講師（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 大阪大学・松田謙一助教（歯学研究科，有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野） 実習協力者： 大阪大学・小川泰治医員，榎木香織医員，岡田匡史医員（有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的能力を持った臨床研究のリーダーを輩出する。						
受入開始時期	平成26年10月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	大阪大学大学院歯学研究科 大学院生	3	3	3	3	3	15
							0
							0
							0
	計	3	3	3	3	3	15

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学歯学部
教育プログラム・コース名	九州大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 口腔健康科学特論
対象者	歯学生5年次生
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・口腔から全身の健康を推進する口腔健康科学の理論と実践が理解・説明できる歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 講義を履修し、受講後に行う内容に即した課題試験に合格すること【九州大学歯学部必修、他参加校自由選択】 履修方法： 次項に記載する履修科目内容を履修させる。1単位・90分×8回の集中講義科目を新規に開講する。不合格者については予備実習中に試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。本実習開始前の予備実習期間内に課題が解決できるよう、課題レポート提出を反復させる。
履修科目等	<九州大学必修科目、他大学自由選択科目> 口腔健康科学特論（集中講義）（1単位・90分×8回） 各回の講義内容は以下の通り。 第1回：栄養の経口摂取と摂食行動、糖代謝、肥満の関連性 第2回：肥満の病態と微細慢性炎症の成立機序 第3回：肥満と耐糖能異常の関連性、メタボリックシンドローム成立機序 第4回：歯周炎症と肥満の病態の類似性 第5回：歯周炎症とインスリン抵抗性、心腎連関への影響 第6回：久山コホートの特徴とこれまでの成果 第7回：医学統計学実践 第8回：歯周炎症のアルツハイマー病への関わり
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	【新規性】 座学が終了し、臨床実習に入る時点でOSCEやCBTと並行して本特論を集中講義（臨床予備実習の期間）の形態で開講する。すなわち、従来のコアカリキュラムに対応した臨床実習履修の可否を問うOSCE、CBTに加え、高齢化社会対応型の口腔健康科学特論を実施することに新規性がある。 【独創性】 九州大学歯学部・歯学府は「口腔の健康から全身の健康を推進する口腔健康科学」「組織の再生・再建研究」を重点プロジェクトに位置付け、独創性に富む世界的研究拠点形成を目指している。その達成に向け研究志向大学としての使命を自覚し、研究マインドを有する学部学生の醸成を念頭に置いた教育の展開を目指している。本カリキュラムはこの重点プロジェクトのうち、口腔健康科学に特化したものであり、臨床実習に向けて口腔健康科学の理論と実践を周知徹底させ、課題形式での演習を体験させることで座学と課題解決能力の鍛錬を予備実習期間中に行い、実践能力を養成するものである。コースの内容は九州大学歯学部が世界をリードする研究分野であり、これらの研究成果（エビデンス）に基づき実地問題として課題を設定し、学生の解決能力を養う。とりわけ個々の生活習慣病保有患者の病態に即したオーダーメイド医療の実践力養成、特定の患者集団の分子疫学的な病態解析に向けた実践力の養成に重点を置く。

指導体制	教育プログラム統括：九州大学・西村英紀教授（歯周病学） 各回の講義担当： 第1回：九州大学・二ノ宮裕三教授、重村憲徳准教授（口腔生理学） 第2～5回：九州大学・西村英紀教授（歯周病学） 第6、7回：九州大学・山下喜久教授（口腔予防医学） 第8回：九州大学・中西博教授（薬理学）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は卒後、臨床の場において、激増しつつある生活習慣病患者に遭遇した際に的確に病態把握が可能となるばかりでなく、口腔から全身の健康へ貢献できる歯科医療の実践が行える。また、歯科医師会における保健衛生部や行政畑において、口腔健康科学をベースとした疫学調査の企画と実践をリードできる人材となり得る。さらに、教育・研究機関において口腔健康科学研究をリードする歯科医学者としての基礎が養える。						
受入開始時期	平成27年7月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	九州大学歯学生5年次生	0	53	53	53	53	212
	連携大学歯学生5～6年次生	0	10	10	10	10	40
							0
							0
	計	0	63	63	63	63	252

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学歯学部
教育プログラム・コース名	長崎大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習
対象者	歯学部5～6年次生（5年次後期～6年次前期、診療参加型臨床実習実施中）
修業年限（期間）	5日間（1単位、30時間の実習）
養成すべき人材像	・地域歯科医療における在宅医療・介護支援の重要性、ならびに地域住民の健康像・歯科疾患像と生活環境や保健システムとの関連を理解する歯学生 ・地域歯科医療・地域口腔保健実践の場で必要とされる、知識、情報収集能力、マネジメント能力の基礎を身につけた歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本実習を履修し、試験に合格すること【長崎大学歯学部必修、他参加校自由選択】 履修方法： 次項の履修科目内容を履修させる。診療参加型臨床実習実施期間中に<u>1単位（5日間で総計30時間）の滞在型離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習を新設する</u>。長崎大学歯学部は必修とする。 学生には毎日のポートフォリオの記載を義務づけ、これにより指導者は学生の履修内容や到達度を確認し、きめの細かい指導に反映させる。不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、個々のポートフォリオに応じた課題を与え、レポート形式での回答を求める。
履修科目等	<長崎大学必修科目、他大学自由選択科目> 離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習（1単位、30時間の実習） ・実習方法：1組4名ずつ、H26年10月から13クールに分かれて、連続5日間五島列島五島市にて滞在型実習を長崎大学生に対して実施（年間計50名）、H27年度以降は、サマースクールとして8月～9月に5クール（20名）の同様の実習を他大学選択履修者に実施（年間計70名）。 ・初日（移動／ガイダンス）： 午前；船便にて移動（3.5時間）。 午後；実習項目、到達目標のガイダンスとディスカッション。 ・離島歯科口腔医療実習：民間歯科医院による往診に帯同し、見学ならびに補助を行う。 ・離島福祉施設実習：五島市社会福祉協議会「デイ・はまゆう」ならびに要介護施設只狩荘にて、介護スタッフの補助、口腔ケアの実践を行い、高齢者歯科保健に必要な知識、態度、技能を学ぶ。また福祉現場での介護スタッフとの連携を体験する。 ・離島保健医療実習：五島市健康政策課・長寿介護課における、行政が実施している保健予防事業への参加を通じて公衆衛生上、必要な知識、態度、技能を学ぶ。 ・グループディスカッション：各学生のポートフォリオを基にグループディスカッションを行い互いの学びの共有、問題点の抽出を行う。

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	長崎県は全国で最も多くの離島を有し、離島地域の高齢化率は34%を超え、わが国の超高齢社会がすでに具現化されている。健康長寿社会の貢献マインドを范疇するにあたり絶好の教育現場である。長崎大学歯学部では、宿泊施設を有する「長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所（五島列島五島市）」を拠点として、医学部、薬学部と共に多職種連携による「地域医療一貫教育」を行う。連携大学からもサマースクールとして、学生受け入れを行うことが可能である。<u>医歯薬の医療系3学部の共習で、実際に学生が離島に赴き、滞在し、離島医療を実体験しながら医療・保健・福祉学を学ぶ本実習プログラムは新規性かつ独創性がある。</u>						
指導体制	長崎大学医歯薬学総合研究科口腔保健学分野が統括する。 教育プログラム統括： 長崎大学・齋藤俊行教授（口腔保健学分野） 担当教員： 長崎大学・齋藤俊行教授（口腔保健学分野） 長崎大学・林田秀明講師（総合歯科） 長崎大学・福田英輝講師（周術期管理センター） 長崎大学・北村雅保助教（口腔保健学） 長崎大学・小山善哉助教（口腔保健学分野）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	超高齢社会において、口腔内だけを診る歯科医師ではなく、高齢者の生活に密着し、口腔を通して全身を診ることのできる歯科医師を養成する。プログラム修了者は、他職種と協働して高齢者の生活の質を維持に貢献し、高齢者医療、地域歯科医療のリーダーとなり得る。						
受入開始時期	平成26年10月： 次期診療参加型臨床実習の開始に合わせて受け入れを開始する。 平成27年度： 平成27年度以降の全大学の共通プログラム開始後、希望する20名程度を全国の連携校より受入れる。						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	長崎大学歯学生5～6年次生	50	50	50	50	50	250
	参加大学歯学生5～6年次生	0	20	20	20	20	80
							0
							0
	計	50	70	70	70	70	330

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学
教育プログラム・コース名	鹿児島大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース
対象者	歯学生6年次生
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	- 健康長寿社会の実現のために、様々な地域の医療ニーズに対応できるマインドを持った歯学生・歯科医療人 - 住民の高齢化と医療過疎の問題を抱える地域・離島における歯科診療の実態を理解し、包括的歯科医療を推進できるマインドを持った歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 講義を受講しレポートを提出すること。可否は提出されたレポート内容の評価によって決定する。【鹿児島大学歯学部必修、他参加校自由選択】 履修方法： <u>次項の内容の「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」を新規開講する（1単位）。</u>鹿児島大学で行われる講義を受講すること。他大学からの受講はe-learningもしくはDVDによる授業形式とする。希望者には奄美大島もしくは与論島への離島歯科医療実習へ参加させる（オプション）。
履修科目等	<鹿児島大学必修科目、他大学自由選択科目> 奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース（1単位，90分×7回） 1. 講義（90分×7回）：奄美大島・与論島における口腔と全身の健康特論 各回の講義内容は以下の通り。 第1回：地域医療の役割と機能 第2回：地域・離島における医療供給システム 第3回：離島歯科診療（総論） 第4回：離島巡回歯科診療の現状と課題（小児） 第5回：離島巡回歯科診療の現状と課題（成人） 第6回：奄美大島における口腔と全身の健康 第7回：与論島における口腔と全身の健康 2. 歯科医療実習（希望者のみ）：奄美・与論両島への派遣型歯科医療実習
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	豊かな自然に恵まれる奄美大島、与論島は、古くから健康長寿の島としても知られるが、住民の高齢化と医療過疎の問題も抱えている。鹿児島大学はこの両島に定期的な巡回医科診療を行っているが、平成26年度より新規に歯科診療を開始する。地域・離島は、歯科医療供給の不均衡地域であり、住民の健康格差を生じかねない。今回新たに開講する本コースでは、<u>本土より深刻な高齢化と医療過疎化の進む両島をモデルとしてその現状と問題点を明らかにし、今後ますます進むことが想定される高齢化社会と医療過疎化に対応した医療人マインドの育成を図る。</u>また、<u>全国でも有数の実績を有する本学医学部の「離島へき地医療人育成センター」および「国際島嶼医療学講座地域医療学分野」の協力を得て、歯科と医科を中心とした多職種連携やチーム医療についても学べる点に、鹿児島大学としての独創性を持つ。</u>希望する学生（他大学からの受け入れも含めて）には、実際に奄美・与論両島への派遣型歯科医療実習に参加できる機会を与える。

指導体制	教育プログラム統括： 鹿児島大学・松口徹也教授（歯学部長） 講義担当 第1回 鹿児島大学・於保孝彦教授（予防歯科学分野） 第2回 鹿児島大学・山口泰平准教授（予防歯科学分野） 第3回 鹿児島大学・田口則宏教授（歯科教育実践学分野） 第4回 鹿児島大学・西山毅助教（口腔保健科） 第5回 鹿児島大学・南弘之教授（咬合機能補綴学分野） 第6、7回 鹿児島大学・根路銘安仁准教授（医学部国際島嶼医療学講座 地域医療学分野） 第6回 鹿児島大学・河野博史助教（歯科総合診療部） 第7回 鹿児島大学・中山歩助教（歯科総合診療部） 歯科医療実習同行 鹿児島大学・田口則宏教授（歯科教育実践学分野） 鹿児島大学・河野博史助教（歯科総合診療部） 鹿児島大学・中山歩助教（歯科総合診療部）						
教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想	本コースの受講により、地域・離島のような歯科医療不均衡地域のニーズに対応できる歯科医療人マインドを持って、歯学部を卒業することを目指す。卒後臨床教育では実践面を強化し、現場で活躍できる歯科医師の養成につなげる。						
受入開始時期	平成27年3月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	鹿児島大学歯 学生6年次生		53	53	53	53	212
	参加大学歯学 生6年次生		10	10	10	10	40
							0
							0
	計	0	63	63	63	63	252

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岩手医科大学大学院歯学研究科
教育プログラム・コース名	岩手医科大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 入院時・災害時のベッドサイドにおける食支援と口腔ケアに関する教育の高度化プログラム
対象者	博士課程大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	非常時（入院時・災害時）において、多職種連携の上で専門的な口腔のリハビリテーション、ケア、管理を行い、ベッドサイドにおける食べる機能の支援と感染防御を実践できる、研究能力を持った指導的な口腔機能の専門家を養成する。
修了要件・履修方法	修了要件： 本プログラムの3単位を履修し、所定の試験に合格すること。【岩手医科大学大学院歯学研究科必修】 履修方法： <u>次項の履修科目の内容からなる実習プログラム（3単位）を新規に開講する。</u>各実習の最終回に内容に即したレポート形式による課題試験を行う。不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式の回答を求める。課題—レポート提出を反復させる。
履修科目等	<岩手医科大学大学院歯学研究科必修科目> 入院時・災害時のベッドサイドにおける食支援と口腔ケアに関する教育の高度化プログラム（3単位、計90時間） ・プログラム内容および目的 超高齢社会のチーム医療における歯科医師の役割と責任を理解させるために、入院時・災害時のベッドサイドにおける歯科医療について教授する。また、栄養サポート・緩和ケア・リハビリテーションと歯科の関わり、被災地における地域連携医療について教授する。 ・履修科目 1. NST・緩和ケア実習（栄養サポートチームおよび緩和ケアチームへの参加）1単位（1時間×30回で計30時間） 2. 摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習（口腔リハビリ外来・口腔ケア外来の診療等の参加）1単位（1時間×30回で計30時間） 3. 被災地口腔ケア・食支援研修（被災地における研修）1単位（7.5時間×4回で計30時間）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<u>様々な局面における多職種連携医療チームに参画し、食支援や口腔ケアを通じて、超高齢社会の口腔機能管理に必要な知識と技術を習得できる点で新規性がある。</u>また、<u>終末期医療、大規模災害の被災地における地域連携医療についても学べる点で独創性</u>がある。

指導体制	教育プログラム統括： 岩手医科大学・石崎明教授（岩手医科大学生化学講座細胞情報科学分野） NST・緩和ケア実習担当： 岩手医科大学・遠藤龍人准教授（医学部内科学講座消化器内科・肝臓分野） 岩手医科大学・木村祐輔教授（医学部緩和医療学科） 岩手医科大学・佐藤友秀助教（歯学部補綴・インプラント学講座） 岩手医科大学・阿部晶子講師（口腔医学講座予防歯科学分野） 摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習担当： 岩手医科大学・古屋純一准教授（歯学部補綴・インプラント学講座） 岩手医科大学・玉田泰嗣助教（歯学部補綴・インプラント学講座） 岩手医科大学・原淳助教（歯学部補綴・インプラント学講座） 岩手医科大学・安藝紗織助教（歯学部補綴・インプラント学講座） 岩手医科大学・阿部晶子講師（歯学部口腔医学講座予防歯科学分野） 岩手医科大学・野田守教授（歯学部歯科保存学講座う蝕治療学分野） 岩手医科大学・赤松順子衛生士長（岩手医科大学歯科衛生部） 被災地口腔ケア・食支援研修： 岩手医科大学・城茂治教授（歯学部口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野） 岩手医科大学・岸光男准教授（歯学部口腔医学講座予防歯科学分野） 岩手医科大学・古屋純一准教授（歯学部補綴・インプラント学講座） 岩手医科大学・佐藤和郎准教授（歯学部口腔保健育成学講座歯科矯正学分野） 岩手県歯科医師会 岩手県保健所						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	2年間の研修後、希望する者には岩手医科大学口腔リハビリ外来等での研修を1年行い、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士取得に必要な3年間の研修を修了させる。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岩手医科大学 大学院生	0	10	10	10	10	40
							0
							0
	計	0	10	10	10	10	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	昭和大学歯学部
教育プログラム・コース名	昭和大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム チーム医療を目指した歯科医療人養成コース
対象者	歯学生6年次生
修業年限（期間）	2週間（4月～5月）
養成すべき人材像	・昭和大学の特色を有する医学部附属病院での診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を通じて、多職種連携の重要性を理解し、将来地域医療の現場で医療チームの一員として患者の健康に貢献する強いマインドを有する歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 昭和大学歯学部の履修要項に基づき、2週間のうち4/5以上に出席し、かつ、修了時に課題試験に合格すること 履修方法： 2単位（10日間で総計60時間）のチーム医療を目指した歯科医療人養成実習を新設 する。昭和大学歯学部学生は6年次の必修選択実習内のコースとして、他の開講しているコースを含めて選択で履修する。他大学学生は希望に応じて自由選択で履修できる。
履修科目等	チーム医療を目指した歯科医療人養成コース ＜昭和大学学生：必修選択科目、他大学学生：自由選択科目＞ 以下の各附属病院の実習を選択して、2週間（10日間で総計60時間）、各病院の実情に応じてクリニカルクラークシップに従事させる。 1. 昭和大学病院（815床）および昭和大学病院附属東病院（199床）実習 受入人数 最大4名 2. 昭和大学藤が丘病院（584床）および昭和大学藤が丘リハビリテーション病院（206床）実習 受入人数 最大2名 3. 昭和大学横浜市北部病院（689床）実習 受入人数 最大4名 4. 昭和大学烏山病院（340床）実習 受入人数 最大2名 5. 昭和大学江東豊洲病院（300床）実習 受入人数 最大2名 各病院の特徴に応じた病棟口腔ケア実習、歯科・歯科口腔外科外来実習、手術室麻酔実習を基本実習とし、ほかに関連診療科等で実習する。 口腔ケア実習においては以下の専門実習に従事する。 《急性期病院》 口腔ケアラウンド、心臓血管外科周術期パス、NSTチーム回診、嚥下回診、ICU・CCU・HCUラウンド、骨髄移植周術期ラウンド、マタニティ歯科外来 《回復期病院》 口腔ケアラウンド、NST回診、嚥下回診、摂食嚥下リハビリテーション、精神疾患病棟健診、認知症病棟健診、ホスピス病棟ラウンド、VAP回診

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	昭和大学ではチーム医療を実践する能力を有する医療人の養成のため、4学部(医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部)合同のチーム医療教育を実践し、附属の8病院を全学部学生の臨床実習に用いているとともに、昭和大学口腔ケアセンターを設置し、全附属病院で歯科医師・歯科衛生士が多職種連携で入院患者の口腔ケアを行っている。また、5病院に歯科・歯科口腔外科を開設し、地域の医療連携や病院内の診療連携を積極的に実施している。昭和大学歯学部学生は5年次に歯科病院で歯科系診療科の診療参加型臨床実習に従事するとともに、医歯薬保健医療学部合同の病棟実習を経験する。5年次終了時に臨床実習終了時OSCEを実施し、コンピテンシーに基づいた臨床能力を評価している。これに合格した学生が6年次に必修選択実習として、海外を含めた多様な医療施設でクリニカルクラークシップに従事する。本コースはこの必修選択実習の一つとして、<u>新規に各附属病院の特徴に応じて、学生がこれまで学習してきた専門領域をさらに発展させ、実践的に多職種連携や地域医療連携の診療現場に参画し、また病院内での病棟ラウンドに加わることで、患者中心のチーム医療の重要性を体験・理解し、将来の医療人マインドを育成するプログラムであり、新規性と独創性に優れている。</u>						
指導体制	コース責任者： 昭和大学・弘中祥司教授（歯学部スペシャルニーズ歯科学講座口腔衛生学部門，昭和大学口腔ケアセンター長） 副責任者： 昭和大学・高橋浩二教授（歯学部スペシャルニーズ歯科学講座口腔リハビリテーション医学部門） 昭和大学・丸岡靖史准教授（歯学部スペシャルニーズ歯科学講座地域連携歯科学部門） 昭和大学・飯島毅彦教授（歯学部全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門） 実習担当者 1. 昭和大学附属病院の歯科・歯科口腔外科常勤歯科医師 昭和大学病院：岡松良昌助教、青山慶太助教、昭和大学藤が丘病院：村山隆夫助教、八十篤聡助教、昭和大学横浜市北部病院：葭葉清香助教、湯浅研助教、宮久保あや子助教、昭和大学烏山病院：山口麻子助教、昭和大学江東豊洲病院：渡邊仁資講師、鈴木麻衣子助教 2. 昭和大学口腔ケアセンター指導教員 石川健太郎講師、内海明美講師、大岡貴史講師、久保田一見助教、石崎晶子助教、石田圭吾助教 3. その他 医学部麻酔科教員ならびに研修歯科麻酔医、各病棟看護師長、薬剤部長ほかが指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	これからの歯科医師は地域医療の現場で他職種（多職種）との連携のもとで、チーム医療の一員として専門歯科医療の立場から患者の健康に貢献することが求められている。本コースは歯学部卒業後の卒後臨床研修に連続する。昭和大学歯科病院における卒後臨床研修では、昭和大学の関連病院歯科・歯科口腔外科および歯科病院連携歯科において研修を実施する「病院歯科コース(臨床研修施設群方式)」を設置するとともに、全臨床研修歯科医に対して、昭和大学口腔ケアセンターでの研修を実施している。「病院歯科コース」では、急性期から慢性期に至る各過程において、多職種と連携したチーム医療における歯科医師の役割を研修する。口腔ケアセンターでは、多職種協働による入院患者の口腔衛生管理の実際を研修する。従って、本コースは歯学部学生のキャリアパス上、非常に有益である。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	昭和大学歯学生		5	7	7	7	26
	連携校歯学生		2	5	5	5	17
							0
							0
	計	0	7	12	12	12	43

教育プログラム・コースの概要

大学名等	昭和大学歯科病院、昭和大学口腔ケアセンター
教育プログラム・コース名	昭和大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 健康長寿社会を実現する病院から在宅への切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	2週間（連携校2週間）
養成すべき人材像	- 健康長寿社会を実現する病院から在宅への切れ目のない医療を実践できる歯科医療人 - 広範な一般医学知識をもち、病院の中で多職種と連携しながら、チーム医療を実践し、入院患者の口腔機能管理を行えるようになり、かつ、退院後の患者の生活を、医療、介護などの面から、包括的に考え、退院後の歯科診療、特に在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し、地域連携パスに繋ぐことで地域医療に貢献できる研修歯科医
修了要件・履修方法	修了要件： 4/5出席でかつ、修了時に課題レポートに合格した者を修了とする。 履修方法： <u>学部教育2単位（10日間で総計60h）相当の「健康長寿社会を実現する病院から在宅への切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース」を新設する。</u>臨床研修開始時に選択科目として行う。病院歯科外来と地域連携歯科医院を利用したクリニカルクラークシップ方式をとり履修を行う。
履修科目等	臨床特論講義（学部教育換算2単位分・90分×15回） 1単位：全身管理、救急医学、有病者歯科医療学（90分×7回） 1単位：栄養、老年歯学、摂食嚥下リハビリテーション（90分×8回） 臨床研修 昭和大学口腔ケアセンター研修（1週間：連携校は2週間） 以下の昭和大学が擁する総合急性期病院および精神疾患急性期回復期病院で展開する口腔ケアセンターの実践を研修させる。 - 昭和大学病院（815床）：総合急性期病院 - 昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院 - 昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院 - 昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期・回復期病院 - 昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	昭和大学は8つの附属病院を持ち、病床数は合計3,155床と全国一を誇る。8つの附属病院は急性期病院、回復期リハビリテーション病院、精神科病院などと多岐に渡り、それぞれの病院が病院の特色・機能に合わせた医療を行っており、入院患者も千差万別である。それらの8つの病院すべてに、術後の合併症、誤嚥性肺炎、窒息事故などを予防し、患者のQOLの向上を目的に、口腔ケアセンターが設置され、多職種と連携をとりながら、入院患者の口腔機能管理を行っている。 様々な疾患の患者に対して多職種で取り組む専門的チーム医療の現場は、病院から在宅への切れ目のない医療を実践し、健康長寿社会の実現に貢献できる歯科医療人を養成するために絶好の研修の場である。入院という限られた期間の中で歯科的ニーズを考えることは、退院後の在宅や施設での歯科的ニーズを考えることにつながり、在宅・訪問歯科診療や地域連携の重要性の理解を深める。また、チーム医療の現場で培った能力は、地域での生活を包括的に考える基礎となる。周術期管理や院内のNST・嚥下回診に参加し、より専門性の高い口腔ケアを実践し、地域で求められる歯科医療人養成を養成するコースである。

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<u>異なる機能を持つ様々な病院において、臨床研修歯科医師にこのようなチーム医療の現場に参加させる臨床研修を行い、その現場に必要な知識を身につけさせる教育内容は新規性、創造性を有する。</u>						
指導体制	講義は毎週火曜日の17時半より行う。 臨床研修については、各病院歯科・歯科口腔外科において指導歯科医師のもと、有病者の歯科医療に参加する。また、臨床研修歯科医師1人もしくは2人について、口腔ケアセンター派遣歯科医師1人が指導にあたり、ともにチーム医療の現場に参加する。 昭和大学附属の歯科室では、専属の歯科医師を指導教員とする。 ・昭和大学病院：岡松良昌助教 ・昭和大学藤が丘病院：村山隆夫助教 ・昭和大学横浜市北部病院：葭葉清香助教 ・昭和大学江東豊洲病院：渡邊仁資講師 ・昭和大学附属烏山病院：山口麻子助教						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	超高齢社会の我が国において、臨床研修終了後、どのような分野に進もうと、健康長寿社会を実現する病院から在宅への切れ目のない医療を実践できる能力は不可欠である。昭和大学歯科病院歯科教育研修センターの臨床研修歯科医師が臨床研修を修了する際には、このような能力を身につけていることを目指す。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	昭和大学研修歯科医師		100	100	100	100	400
	参加大学研修歯科医		5	10	10	10	35
							0
							0
	計	0	105	110	110	110	435

教育プログラム・コースの概要

大学名等	日本大学歯学部
教育プログラム・コース名	日本大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム アドバンスト歯科学講義・実習—摂食機能療法学・高齢者歯科学
対象者	歯学生6年次生
修業年限（期間）	半年（6年次前期）
養成すべき人材像	・一般的な摂食機能療法および高齢者歯科の技術・理念を修得した医療人としてのマインドを持つ歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 課題レポートを提出し、プレゼンテーションを行い、履修後の試験に合格すること【日本大学歯学部必修、他参加校自由選択】 履修方法： <u>1.2単位分の「アドバンスト歯科学講義・実習—摂食機能療法学・高齢者歯科学」を新設する。</u> 次項の内容からなる履修科目内容を受講させる。
履修科目等	<日本大学必修科目、他大学自由選択科目> アドバンスト歯科学講義・実習—摂食機能療法学・高齢者歯科学 ・講義90分×7回（1単位） ・基礎実習90分×2回、臨床実習90分×2回（計6時間、0.2単位） 講義（90分×7回） リハビリテーション医学、摂食・嚥下の生理学、摂食・嚥下障害の診断、成人期の摂食・嚥下障害 基礎実習（相互実習・90分×2回） 1. 口腔ケア実習、摂食機能療法における機能訓練（治療的アプローチ）の実際、討論（先行期・準備期・口腔期、咽頭期、食道期障害の病態） 2. 車椅子利用者を想定した相互実習、代償的・環境改善的・心理的アプローチ、課題学習（チームアプローチの在り方）、発達期の摂食機能障害、課題発表・討論（発達期の疾患・障害と摂食機能） 臨床実習（医学部付属病院への病棟診療、学外施設への訪問診療・外来診療への参加・90分×2回） 1. 日本大学病院病棟（救命集中治療室を含む）臨床実習 2. 院外訪問診療（居宅、特別養護老人ホーム）、高齢者への歯科治療課題学習（高齢者が抱える種々の全身疾患と生活の関連性）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	基礎実習では、車椅子利用者を想定した相互実習を実施することに工夫がある。 臨床実習では、<u>医科歯科連携を念頭に、病棟・訪問・外来の形態をとりながら、参加型および意見交換・発表の場としていることに新規性及び独創性</u>がある。 臨床実習実施において、<u>学内だけでなく、日本大学病院病棟（救命集中治療室を含む）及び院外訪問診療（居宅、特別養護老人ホーム）を組入れているという新規性・独創性</u>がある。

指導体制	日本大学歯学部摂食機能療法学講座が統括する。 教育プログラム統括： 日本大学・植田耕一郎教授（摂食機能療法学講座） 担当教員： 日本大学・平場久雄専任講師（摂食機能療法学講座） 日本大学・阿部仁子助教（摂食機能療法学講座） 日本大学・中山潤利助教（摂食機能療法学講座） 日本大学・佐藤光保助教（摂食機能療法学講座） 他臨床経験3年以上の専修医2名						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	卒後臨床研修における、摂食機能障害の病態を知識と診断力を得た、口腔相障害に対する、対応可能な手技の習得につなげる。 高齢者歯科の技術・理念の重要性を認識させ、卒後臨床研修におけるさらなる習得につなげる。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	日本大学歯学生6年次生	0	130	130	130	130	520
	参加大学6年次生	0	0	5	5	5	15
							0
							0
	計	0	130	135	135	135	535

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学附属病院歯科口腔外科
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース
対象者	社会人歯科医師
修業年限（期間）	1年以上
養成すべき人材像	・全領域のがん患者個々の状態やステージに応じた口腔機能管理を他職種チーム連携のなかで展開することにより集学的治療を支持し、患者のQOL向上に寄与できるリーダー的歯科医師
修了要件・履修方法	修了要件： 金沢大学がん治療支援口腔機能管理社会人研修コースで独自のポイント制を設ける。必修科目2ポイントおよび選択科目3ポイント、計5ポイントを取得すること。最低1年以上の修了期間の後に運営委員会が修了認定を行う。【金沢大学社会人歯科医師研修コース】 履修方法 学外の社会人歯科医師に対して、大学院入学等を伴わずにプログラムを提供する。次項の履修科目内容の <u>コース（学部教育における約1単位相当分）を新設する</u> 。講義科目はe-learning教材の自主学習により、また実習・演習科目は夏期に集中して行う。
履修科目等	＜金沢大学社会人歯科医師対象教育プログラム＞ がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース 各回60分の講義と、毎回後に確認テスト（確認テストは3問、正解が2問に満たない場合は再受験）を行う。正解が2問に満たない場合は再受験とし、合格で0.5ポイント取得とする。 必修科目： 第1回：がん患者口腔機能管理特論（2ポイント、講義、診療見学、実習） 選択科目：（合計3ポイント以上取得） 第2回：腫瘍放射線医学特論（0.5ポイント、e-learning） 第3回：がん緩和医療学特論（0.5ポイント、e-learning） 第4回：がん外科学特論（0.5ポイント、e-learning） 第5回：臨床腫瘍学特論（0.5ポイント、e-learning） 第6回：臨床栄養学特論（0.5ポイント、e-learning） 第7回：腫瘍薬物学特論（0.5ポイント、e-learning） 第8回：コンサルテーション特論（0.5ポイント、講義） 第9回：臨床統計学特論（0.5ポイント、講義） 第10回：臨床統計学演習（0.5ポイント、演習） 第11回：分子腫瘍学特論（0.5ポイント、講義）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全領域のがん患者に対して一貫した口腔機能管理を遂行し、集学的な治療を支援するためには、歯科医師が口腔のみならず様々な臓器・領域別の悪性腫瘍に対する治療や、その有害事象に関する基礎知識を習得し、がん周術期の口腔機能管理において他科主治医と有機的な医科歯科連携を構築することが重要である。さらに、全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベルの的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、 <u>全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性</u> がある。 さらに、金沢大学附属病院ではこれまでの各科別のがん治療体系を見直し、各科横断的がん治療体系の構築を目指して、がん研腫瘍内科、血液内科、乳腺科、泌尿器科、婦人科、頭頸部外科、緩和ケアチームが参加して、治療開始から終末期まで一貫した患者中心の全人的医療が可能な病棟の設置を今年度計画

教育内容の特色等 (新規性・独創性等) (続き)	している。本構想には、がん薬物療法における支持療法に加え、best supportive careへと移行した患者への緩和ケアも対象としており、本プログラム参加により、がん治療開始から終末期までのすべての段階での口腔機能管理を、この病棟での実習を通して学習できる点で独創的である。 また、学外で働く社会人歯科医師に対して、大学院入学を必要としない社会人歯科医師インテンシブコースとして本事業のプログラムを提供し、<u>大学歯学部で口腔機能管理を教育されていない歯科医師に対して学習できる機会を提供する点で新規性・独創性</u>がある。						
指導体制	教育プログラム統括・がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員長： 金沢大学・川尻秀一教授（歯科口腔外科学） がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員 金沢大学・中村博幸准教授 金沢大学・吉澤邦夫講師 金沢大学・長谷剛志非常勤講師） 運営委員会の下にプログラムマネジメント室を置き、専任担当職員を採用しコース実施の調整を行う。 各科目担当者 第1回：金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科） 第2回：金沢大学・高仲強教授（放射線治療科）、絹谷清剛教授（核医学診療科）、小川外志江（看護部） 第3回：金沢大学・山本奈歩（薬剤部）、原祐輔（薬剤部）、丸谷晃子（看護部）、稲垣美智子（看護部）、山田圭輔講師（麻酔・蘇生学）、金田礼三助教（神経科精神科） 第4回：金沢大学・太田哲生教授（消化器外科）、小田誠准教授（呼吸器外科） 第5回：金沢大学・奥村廣和講師（血液内科）、笠原寿郎准教授（呼吸器内科）、井口雅史助教（乳腺科）、溝上敦准教授（泌尿器科） 第6回：金沢大学・大村健二講師（心肺・総合外科、NST） 第7回：金沢大学・矢野聖二教授、山田忠明助教、渡邊弘之講師（がん研腫瘍内科） 第8回：石川県立看護大・武山雅志教授 第9、10回：金沢大学・中村裕之教授（公衆衛生学） 第11回：金沢大学・大島正伸教授（がん研腫瘍遺伝学） 金沢大学・佐藤博教授（がん研細胞機能統御） 金沢大学・須田貴司教授（がん研免疫炎症制御）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	社会人歯科医師インテンシブコース修了者においては、周術期口腔機能管理計画でがん患者の自院への受け入れが容易になると期待される。がん治療中というだけで歯科治療を拒む歯科医師が減少し、一貫して患者の口腔機能管理と経口摂取に関する問題に対応できる地域医療体制が構築される。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	社会人 歯科医師		10	10	10	10	40
							0
							0
							0
	計	0	10	10	10	10	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学附属病院卒後臨床研修センター
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療支援口腔機能管理卒後臨床研修コース
対象者	研修医、研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・全領域のがん患者個々の状態やステージに応じた口腔機能管理を多職種チーム連携のなかで展開することにより集学的治療を支持し、患者のQOL向上に寄与できる基礎的知識と能力を持つ研修医（医師）および研修歯科医（歯科医師）
修了要件・履修方法	修了要件： 金沢大学がん治療支援口腔機能管理社会人研修コースで独自のポイント制を設ける。必修科目2ポイントおよび選択科目2ポイント、計4ポイントを取得すること。e-learningおよび各特論の受講に関しては確認テストに合格すること。診療見学は運営委員会の口頭試問に合格すること。【金沢大学卒後臨床研修センター必修・選択】 履修方法： 次項の履修科目内容の <u>コース（学部教育における約1単位相当分）を新設</u> する。e-Learningクラウドおよび各特論または診療見学を選択して受講する。次項の内容は厚生労働省に認可された既存の研修プログラムの範囲内で内容を高度化させるものであり、認可申請を待たずとも開始可能である。
履修科目等	＜金沢大学卒後臨床研修センター必修・選択コース＞ がん治療支援口腔機能管理プログラム 各回60分の講義と、毎回後に確認テスト（確認テストは3問、正解が2問に満たない場合は再受験）を行う。正解が2問に満たない場合は再受験とし、合格で0.5ポイント取得とする。 必修科目： 第1回：がん患者口腔機能管理特論（2ポイント、講義、診療見学、実習） 選択科目：（合計2ポイント以上取得） 第2回：腫瘍放射線医学特論（0.5ポイント、e-learning） 第3回：がん緩和医療学特論（0.5ポイント、e-learning） 第4回：がん外科学特論（0.5ポイント、e-learning） 第5回：臨床腫瘍学特論（0.5ポイント、e-learning） 第6回：臨床栄養学特論（0.5ポイント、e-learning） 第7回：腫瘍薬物学特論（0.5ポイント、e-learning） 第8回：コンサルテーション特論（0.5ポイント、講義） 第9回：臨床統計学特論（0.5ポイント、講義） 第10回：臨床統計学演習（0.5ポイント、演習） 第11回：分子腫瘍学特論（0.5ポイント、講義）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全領域のがん患者に対して一貫した口腔機能管理を遂行し、集学的な治療を支援するためには、医師、歯科医師が口腔のみならず様々な臓器・領域別の悪性腫瘍に対する治療や、その有害事象に関する基礎知識を習得し、がん周術期の口腔機能管理において他科主治医と有機的な医科歯科連携を構築することが重要である。さらに、全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベル的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、 全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性 がある。

教育内容の特色等 (新規性・独創性等) (続き)	全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベルの的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性がある。						
指導体制	教育プログラム統括・がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員長： 金沢大学・川尻秀一教授（歯科口腔外科学） がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員 金沢大学・中村博幸准教授（歯科口腔外科学） 金沢大学・吉澤邦夫講師（歯科口腔外科学） 金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科学） 運営委員会の下にプログラムマネジメント室を置き、専任担当職員を採用しコース実施の調整を行う。 各科目担当者 第1回：金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科） 第2回：金沢大学・高仲強教授（放射線治療科）、絹谷清剛教授（核医学診療科）、小川外志江（看護部） 第3回：金沢大学・山本奈歩（薬剤部）、原祐輔（薬剤部）、丸谷晃子（看護部）、稲垣美智子（看護部）、山田圭輔講師（麻酔・蘇生学）、金田礼三助教（神経科精神科） 第4回：金沢大学・太田哲生教授（消化器外科）、小田誠准教授（呼吸器外科） 第5回：金沢大学・奥村廣和講師（血液内科）、笠原寿郎准教授（呼吸器内科）、井口雅史助教（乳腺科）、溝上敦准教授（泌尿器科） 第6回：金沢大学・大村健二講師（心肺・総合外科、NST） 第7回：金沢大学・矢野聖二教授、山田忠明助教、渡邊弘之講師（がん研腫瘍内科） 第8回：石川県立看護大・武山雅志教授 第9、10回：金沢大学・中村裕之教授（公衆衛生学） 第11回：金沢大学・大島正伸教授（がん研腫瘍遺伝学） 金沢大学・佐藤博教授（がん研細胞機能統御） 金沢大学・須田貴司教授（がん研免疫炎症制御）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん患者の口腔機能管理や歯科支持療法・医科歯科連携の必要性や重要性が増していくなか、各地域で取り組みが開始されたがん医科歯科連携の方法や内容について、各地域間での相違が生じているという問題も明らかになっている。こうした中、本事業を修了した医師、歯科医師が、がん医療に関する医科歯科連携の質を担保していくことが期待される。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	金沢大学病院 研修医・研修 歯科医	0	5	5	5	5	20
							0
							0
							0
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療支援口腔機能管理コース
対象者	博士課程大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	・全領域のがん患者個々の状態やステージに応じた口腔機能管理を他職種チーム連携のなかで展開することにより集学的治療を支持し、患者のQOL向上に寄与できる研究能力を持ったリーダー的大学院生
修了要件・履修方法	修了要件： 講義を受講し0.5単位を取得すること。e-learningおよび各特論の受講は確認テスト、診療見学は口頭試問に合格すること【金沢大学大学院必修科目、他大学自由選択科目】 履修方法： 次項の履修科目内容の <u>コース（0.5単位）を新設する。</u> 学生はe-Learningクラウドおよび各特論、診療見学を選択して受講する。さらに、口腔機能管理に関連する研究を実施し学会・論文発表を行うとともに学位取得を目指す。
履修科目等	<金沢大学必修科目、他大学自由選択科目> がん治療支援口腔機能管理プログラム（0.5単位） 必修授業：（3回） 第1回：腫瘍薬物学および腫瘍放射線医学特論（e-learning） 第2回：がん緩和医療学、がん外科学、臨床腫瘍学特論（e-learning） 第3回：臨床栄養学、がん患者口腔機能管理特論（講義、診療見学、実習） 選択授業：（合計1回以上受講） 第4回：コンサルテーション特論（講義） 第5回：臨床統計学特論（講義） 第6回：臨床統計学演習（演習） 第7回：分子腫瘍学特論（講義）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全領域のがん患者に対して一貫した口腔機能管理を遂行し、集学的な治療を支援するためには、歯科医師が口腔のみならず様々な臓器・領域別の悪性腫瘍に対する治療や、その有害事象に関する基礎知識を習得し、がん周術期の口腔機能管理において他科主治医と有機的な医科歯科連携を構築することが重要である。さらに、全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベルの的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、<u>がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性がある。</u>

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	さらに、金沢大学附属病院ではこれまでの各科別のがん治療体系を見直し、各科横断的がん治療体系の構築を目指して、がん研腫瘍内科、血液内科、乳腺科、泌尿器科、婦人科、頭頸部外科、緩和ケアチームが参加して、治療開始から終末期まで一貫した患者中心の全人的医療が可能な病棟の設置を今年度計画している。本構想には、がん薬物療法における支持療法に加え、best supportive careへと移行した患者への緩和ケアも対象としており、本プログラム参加により、<u>がん治療開始から終末期までのすべての段階での口腔機能管理を、この病棟での実習を通して学習できる点で独創的である。</u>						
指導体制	教育プログラム統括・がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員長： 金沢大学・川尻秀一教授（歯科口腔外科学） がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員 金沢大学・中村博幸准教授（歯科口腔外科学） 金沢大学・吉澤邦夫講師（歯科口腔外科学） 金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科学） 運営委員会の下にプログラムマネジメント室を置き、専任担当職員を採用しコース実施の調整を行う。 各科目担当者 第1回：金沢大学・矢野聖二教授、山田忠明助教、渡邊弘之講師（がん研腫瘍内科）、高仲強教授（放射線治療科）、絹谷清剛教授（核医学診療科）、小川外志江（看護部） 第2回：金沢大学・山本奈歩（薬剤部）、原祐輔（薬剤部）、丸谷晃子（看護部）、稲垣美智子（看護部）、山田圭輔講師（麻酔・蘇生学）、金田礼三助教（神経科精神科） 第3回：金沢大学・太田哲生教授（消化器外科）、小田誠准教授（呼吸器外科）、金沢大学・奥村廣和講師（血液内科）、笠原寿郎准教授（呼吸器内科）、井口雅史助教（乳腺科）、溝上敦准教授（泌尿器科）、大村健二講師（心肺・総合外科、NST） 第4回：金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科） 第5回：石川県立看護大・武山雅志教授 第6、7回：金沢大学・中村裕之教授（公衆衛生学） 第8回：金沢大学・大島正伸教授（がん研腫瘍遺伝学） 金沢大学・佐藤博教授（がん研細胞機能統御） 金沢大学・須田貴司教授（がん研免疫炎症制御）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん患者の口腔機能管理や歯科支持療法・医科歯科連携の必要性や重要性が増していくなか、各地域で取り組みが開始されたがん医科歯科連携の方法や内容について、各地域間での相違が生じているという問題も明らかになっている。こうした中、本事業を修了した歯科医師は、がん医療に関する医科歯科連携の質を担保にあたり、研究能力をもつ指導的歯科医師として活躍する。						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	金沢大学大学院 大学院生	0	3	3	3	3	12
							0
							0
							0
	計	0	3	3	3	3	12

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学病院卒後臨床研修センター（歯科臨床研修）
教育プログラム・コース名	兵庫医科大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人養成コース
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・オーラルマネジメント（OM）の構成要素である“CREATE”を理解する研修歯科医 ・「平時」からOMの実践に努め、高齢者が弱者となる災害時に加え、患者にとっては「有事」と言えるがんの治療などの周術期においても、生と死を意識しながら、多職種との連携によるチーム医療を的確かつ円滑に実践できる研修歯科医・歯科医療人
修了要件・履修方法	修了要件： 講義を6回、歯科医師を含めた多職種で構成される呼吸サポートチームへの帯同を中心とする演習を1回（90分×2回）の計8回受講し、各講義・演習毎に求めるレポート課題に合格すること【参加大学の自由選択科目】 履修方法： <u>参加大学の自由選択科目として本選択制コース（学部教育における約1単位相当）を新規開講</u>する。兵庫医科大学病院での演習（原則として毎週木曜日の午後）への参加は必須とするが、講義の聴講が難しい場合には、講義を録画したDVDを視聴し、視聴したことを確認するための小テストへの回答とレポートの提出での代用を認める。
履修科目等	兵庫医科大学病院卒後臨床研修センター（歯科臨床研修）自由選択「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人養成コース 本プログラムでは、兵庫医科大学病院歯科口腔外科のオリジナルである“CREATE”を意識した「オーラルマネジメント」（以下OM）を教授する。当科でのOMとは、広義の口腔ケアとされる清掃（Cleaning）とリハビリ（Rehabilitation）の2つに加え、ブラッシング指導のような教育（Education）、そして的確な口腔の評価（Assessment）、さらに抜歯や義歯の調整など歯科治療（Treatment）の5つの要素が揃うことが重要であるという概念である。以上の5要素を適切に達成できれば、おいしく食べる（Eat）、もしくは、楽しむ（Enjoy）ことが可能となり、CleaningからEat・Enjoyまでの頭文字6つを順に並べると“CREATE”で、「食べられる口をCREATE（つくる）」が目標である。 1. オーラルマネジメントの基本：90分 x 3 コマ （1）口腔清掃（セルフケア、プロフェッショナルケア） （2）口腔リハビリ（欠損補綴、嚥下）、患者教育および口腔の評価・診断 （3）歯科治療（特に災害時にも役立つ応急処置：顎顔面外傷、義歯の修理など） 2. オーラルマネジメントの実践例：90分 x 3 コマ （1）周術期（食道癌・骨髄移植・がん化学療法） （2）災害医療における歯科医師の役割（プライマリケアと歯型照合） 3. クリティカルケア学（JR福知山線脱線事故の経験も含めて）：90分 x 1 コマ 4. “CREATE”実践実習（呼吸ケアチームへの帯同を中心に）：90分 x 2 コマ

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	周術期における口腔に関連する合併症を予防するには口腔ケアだけでは不十分で、“CREATE”の構成要素である教育(E)、評価(A)、歯科治療(T)を加えたOMが不可欠であることを、医科大学病院における臨床の中で他施設に先駆けて兵庫医科大学病院歯科口腔外科が示してきた。<u>卒前教育を受ける歯学部では十分に経験しにくい医師、看護師ら、多職種との医療連携で得た“CREATE”の概念に基づくOMのノウハウを実践の中で学ぶことができることに新規性と独創性がある。</u> <u>兵庫医科大学病院歯科口腔外科のスタッフは、医科大学病院におけるがん医療は当然のこととして、阪神・淡路大震災とJR福知山線脱線事故という2つの大きな災害の経験を踏まえた生と死を意識したチーム医療を展開しており、その経験に基づく研修を研修歯科医に大きなインパクトをもって与えることにも新規性と独創性がある。</u>						
指導体制	教育プログラム統括：兵庫医科大学・岸本裕充教授（歯科口腔外科学） 講義・演習の担当者は以下の通り 【講義】 1－1，2－1：兵庫医科大学・岸本裕充教授（歯科口腔外科学） 1－2：兵庫医科大学・長谷川陽子講師（歯科口腔外科学） 1－3：兵庫医科大学・野口一馬准教授（歯科口腔外科学） 2－2：兵庫県警察歯科医会（宝塚歯科医師会）・田川宣文副会長 3：聖路加看護大学・宇都宮明美准教授（集中治療看護学） ※講義は病院での診療研修（業務）時間外（17:30～19:00）に開催する。 【演習】 4：兵庫医科大学・西信一教授（集中治療学，兵庫医科大学病院副院長）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、「平時」には“CREATE”の概念に基づく周術期のOMを、また、近い将来に発生することが予測されている大規模災害（例：南海トラフ地震）のような「有事」を想定して、実践的な歯科医療を行えるようになる。また、歯科医師会における保健衛生部や行政畑において、災害医療学をベースとした地域医療の発展をリードできる人材となり得る。さらに、教育・研究機関において災害歯科医療分野をリードする歯科医学者としての基礎が養える。						
受入開始時期	平成28年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	参加校 研修歯科医	0	0	20	20	20	60
							0
							0
							0
	計	0	0	20	20	20	60

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革 —死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制構築—

達成目標:口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場をサポートできる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進できる歯科医師を育てる。

課題

1. 歯科医師は患者の死や人生に寄り添うことに慣れていない
2. 健康な患者に通常行われる歯科的診断と治療が要介護者にそのままあてはまらない
3. 急性期病棟での多職種連携実習や在宅介護実習の教育の場が不足
4. 教育機会が不均等で共通教育ツールが不足
5. 周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足

①講義シリーズ(連携大学共通、6単位)

○口腔と全身健康の関わり(2単位)、○がんの化学療法や各種外科的介入等における周術期管理(2単位)、○老人介護施設や在宅介護医療における歯学教育、死生学、多職種連携、地域包括ケア(2単位)

②シミュレーション・PBL演習

○全連携大学に要介護高齢者を模したシミュレータを配布、プレクリニカル演習を開発
○老人介護施設見学や地域医療人材育成講座の地域医療実習を利用したPBL演習を提供する。

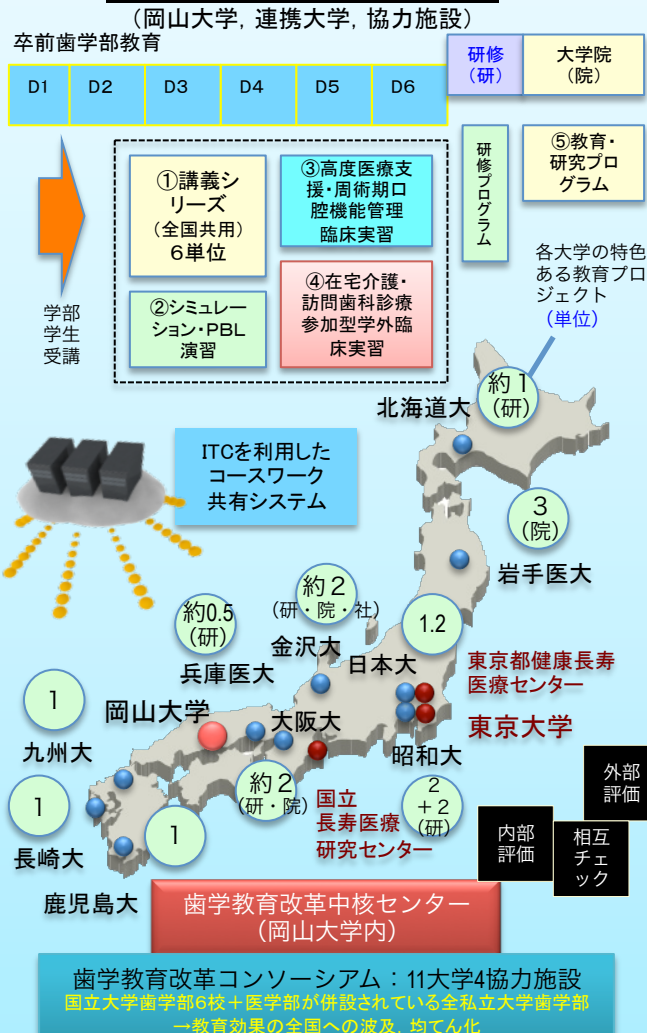
③高度医療支援・周術期口腔機能管理実習

○岡山大学病院周術期管理センターにおける多職種連携実習(右)
○昭和大学病院の医歯薬保健学部合同病棟実習など

周術期管理センターのメンバー



医療支援歯学教育コースワーク



解決方策

1. 共同授業に死生学や地域包括ケアの概念の導入
2. 医学教育と歯科技術教育の融合、患者の機能低下にあわせた介入の選択
3. 岡山大学、連携大学、協力施設が協力して、急性期病棟における周術期管理や在宅介護臨床実習を提供
4. 岡山大学、連携大学、協力施設が協力して、全国統一電子化授業ライブラリーを作成し、共有
5. 教育を支える臨床研究能力の開発、さらなる研究フィールドの確保

④在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習

○長崎大学の離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習、○日本大学の摂食機能療法学学外実習、○東京大学高齢社会総合研究機構 柏プロジェクト医療フィールド、○岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習(下図)等。



⑤高齢者の疫学研究フィールド

○東京大学の柏研究フィールド、○大阪大学や東京都健康長寿医療センターのSONIC研究フィールドに歯科として積極的に参画し、高齢者医療における多職種連携研究を進め、健康長寿社会を担う医科歯科連携教育に反映する。

ITを利用した講義の共有(eラーニング)、各担当校間の教員および学生の相互交流、主幹校(岡山大学)による全国規模のシンポジウム開催、海外専門家の招聘講演